MARUZEN LIBRARY

英語再発見

コミュニカティブ・イングリッシュのすすめ

春日良治

英語学習や英会話についてこと細かに書かれた本は多いが、本書は「国際共通語」としての英語を改めて身につけるための基本的な心構えや、本当に必要とされるコミュニカティブな表現についてわかりやすく解説する。

英語再発見

現在、英語学習や英会話についてこと細かに書かれた本は数多くあるが、本書では、初心にかえって「国際共通語」としての英語を改めて身につけるための基本的な心構えや、本当に必要とされるコミュニカティブな表現が、わかりやすくまとめられている。また、約三十年にわたって各国政府機関・外資系企業などの広報業務にたずさわってきた著者が、国際交流のあり方などについても独自の経験を生かした興味深い提言を行っている。

9d

春日良治

英語再発見

コミュニカティブ・イングリッシュのすすめ

丸善ライブラリー

［イラスト］ 藤本　知佳子

TAKE ME OUT TO THE BALL GAME
Words by Jack Norworth Music by Albert Von Tilzer
© 1909 FRANCIS DAY & HUNTER LTD. Rights for Japan controlled by EMI Music Publishing Japan Ltd.
日本音楽著作権協会(出)許諾第9666075-601号

APRIL SHOWERS
Words by B.G.De Syluva Music by Louis Silvers
© 1921 by WARNER BROS. INC.
All rights reserved. Used by permission.
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPEL MUSIC, JAPAN K.K. ％ NICHION, INC.
日本音楽著作権協会(出)許諾第9666075-601号

まえがき

1964（昭和39）年，東京オリンピックが華やかに開催された．私は，大学を卒業したあと，自分の進むべき道を模索していたが，オリンピックで多くの外国人と接したことを契機に英語にたずさわる職業につくことに決め，外資系の企業を得意先（clients）として主に広報業務（PR＝public relations activities）を行う会社に就職した．

見習いアシスタントとして最初に担当したのは，アメリカのホテル・チェーンとイギリスの旅客船会社であった．以来三十年以上（three decades-plus）にわたって航空会社，各国の政府機関，特に観光業にたずさわる各種クライアントのニーズを満たすべく，実際に英語を使いながら活動してきた．

本書は，これまで仕事や趣味を通じて内外で出会った外国人と楽しく交流することで親しんできた，国際共通語（lingua franca，common language）としての英語

習得への「でこぼこ道」(bumpy road) を綴ったものである.

現在，英語学習や英会話について詳細に書かれている本なら数多くあるが，第Ⅰ・Ⅱ部では，初心にかえって，改めて国際共通語としての英語を身につけるための基本的な心構えや，仕事や趣味などを通じて外国人と交流するさいに本当に必要とされる communicative な英語について，自身のささやかな体験を踏まえてまとめてみた.

そして第Ⅲ・Ⅳ部は，少年時代から憧れ続けたアメリカ・ヨーロッパ，そして成長著しい香港・シンガポール・インドネシアなどのアジア各国を実際に巡り歩いて見聞したことや知り合った人々，そして海外を旅するうえで最低限知っておきたい英語表現についてまとめてある.

最後に，第Ⅴ部では，日本での対外広報業務の仕事を通じ，あるいはプライベートでの外国人の友人たちとの付き合いを通じて感じる，国際交流のあり方などについて考えてみた.

私はこれまで，いつも「遊び心」を持って楽しみながら英語に接してきたし，その姿勢は今でも変わらない. 英語を習得するうえで大切なのは，楽しみながら，興味を抱きながら気楽に取り組むことではないかと思う. 本書が，まったく英語に関心のない人，英語を「堅苦しい

勉強」と考えがちな人，そして「なんとかして英語の実力をアップさせたい」と願っている人たちのお役に立てればと考えている．

1996年11月

春日　良治

Digitized by the Internet Archive
in 2024

https://archive.org/details/unset0000unse_n7e0

目　次

I　lingua franca としての英語 ……1
<国際共通語>

II　communicative English への道 ……33

III　アメリカとの出会い ……67

IV　異国への憧憬 ……119

V　英語世界への旅 ……145

参考文献 ……177

I　lingua franca としての英語

＜国際共通語＞

More emphasis on English needed
——もっと英語を身につけよう

アメリカ人のフリーランサー，エドワード・ニーラン(Edward Nielan) 記者は英字紙 *The Daily Yomiuri* (1994年5月18日付) の "Dateline Tokyo" で，「国際化を進めてゆくためには，日本人はもっと英語を身につける必要がある」と愛情を込めて助言している．

1960年以降，ニーラン記者は韓国を皮切りに，日本にも数年滞在した後，7年間，香港を拠点に東アジアで活動した．アメリカに帰国後は，首都ワシントンD. C. (the District) で十年余りにわたってアジア各国の政治・経済部記者と数々の交流を持ったという．

永年にわたってアジアの人々と接触し，現在は東京を拠点に活躍中のニーラン氏は「日本人はとくに英語を話す能力を強化する必要がある」という．氏によると，英語の native speaker は世界中で約3億6,000万人おり，そのほかに約1億3,000万人が国際共通語 (lingua franca, world's common language) として英語をつかって

いるという．

一方，マカオ生まれの中国人で，航空貨物宅配会社DHLの創始者ポー・チェン（Po Chung）氏は，いろいろな知識を学ぶことの重要性をつぎのように力説している．

> "Knowledge is wealth. A nation's sum of knowledge is part of its national wealth as sure as oil underground or real estate values."
> (知識は富なり．国の知識の総和は，地下に埋蔵されている石油や不動産の価値と同様に国の宝だ)

チェン氏はまた，シンガポール（SIN）と香港（HKG）を例にあげ，国際的なビジネスをするうえでいかに英語が重要かについても触れている．氏によると，両方とも地下資源（natural resourses）がまったくなく，土地（land space）も非常に限られた世界的な小国・地域であるにもかかわらず，今日の経済上のプレゼンスを築き上げたが，その背景には，ほとんどの住民が国際共通語としての英語を話せることがあるという．

最近，アメリカの経済誌 *Fortune* が行った調査によると，世界でもっともビジネスに適した国際都市（the best city for business）はシンガポールであった．ちなみに，第2位はサンフランシスコ地区（San Francisco

area)，第３位はロンドン．前々回のトップ，香港は第６位であった．ところでわが東京（TYO）はというと，かろうじて第10位に入っていた．

TIME（96年６月10日号）に“Unlock the Shackles”（拘束をなくそう）と題する国際競争力（competitiveness）についての調査結果が紹介されている．ここでも，シンガポールと香港が１位，２位を占め３位にはニュージーランド（NZ）が入っている．その調査を担当した，ジュネーブに本部がある世界経済フォーラム（World Economic Forum）は，成功の基準（criteria）として貿易上の規制が少なく柔軟な（flexible）労働市場，ハイテク，さらに安定した政治体制をあげている．

ちなみに，非関税障壁（NTB＝non-tariff barrier）の存在など，経済の閉鎖性を非難されている日本は，前年の４位から一気に13位に急降下（nosedive）している．

なお，前述の「フォーラム」はニュージーランドの躍進について「小さな政府づくりに努力を積み重ねている十余年のリストラ政策の賜物」と賞賛している．

Studying conversational English
——英会話を学ぶこと

ロサンゼルスで働いていた甥が 7年ぶりに帰国したので，一晩じゅう語り明かした．延べ12年アメリカに在住しており，英会話を学ぶうえで示唆に富む発言をしていたので，その一部を紹介したい．

彼は大学 2 年生の時に私費留学生として一年間カリフォルニア州サンディエゴ（San Diego）で英語を学び，卒業後，ある上場企業（a listed company on TSE）に就職．2 年後，ロサンゼルス駐在員となったが，3 年目に都合で退職し，数社の日系企業で経験を重ねた後，すき間市場（niche market）狙いのハイテク商品を扱う日系現地法人に再就職．現在では指導的ポストについて，アメリカ社会で伸び伸びとやっている．

英語を習得するうえでの彼の発言を要約すると，以下のようなものになる（筆者はほぼ全面的に賛同）．

・英会話は気力だ．一対一での会話だから，自分の意

志を伝えたいという強い気持ちが必要．言葉は実社会では単にコミュニケーションのツール（道具）で，必ずしも文法にそぐわなくても通じる．学校の試験とは違う．

- 話好きの人，人のものまねが好きな人は上達が早い．タモリ氏は英会話も相当達者なはず．
- リスニングが一番難しく，最も大切．相手の言葉が理解（follow）できないと会話が成立しない．
- 英語放送（日本ではCNN, BBC, NHK衛星など）をBGM風に流し，目に見えない（intangible）生きた英語のfeeling, rhythumを習得する．
- 基本的な専門知識（expertise, technical terms, buzz-words）は努力して身につけること．

ところで，日本の歪んだ英語教育（warped English language education in Japan）にくさびを打ち込もうと，95年秋に学長に就任したG・クラーク教授（Prof. Gregory Clark）の方針で多摩大学では97年度の入学試験科目から英語を除外した．上智大学の教授として著名であったオーストラリア出身の「平成のクラーク先生」によると，入学後，実用的な英語を重点的に指導するという．まず，聞く能力と読む能力が必要で，話すのはその後でよいそうだ．クラーク学長は，多摩大学は学歴社会を崩し，「学習歴社会」をつくるきっかけを与えると

いう．本邦初の試みにまさに挑戦（challenge）している多摩大学．頑張れ．

ついでながら，『朝日新聞』（96年５月14日付）朝刊のトップ記事で，中央教育審議会（文部大臣の諮問機関）が小学校での英会話授業の実施を求める報告案を明らかにしたことが報じられていた．文部省や教育界，立場によって各種の意見，スタンスの違いがあるようだが，インターネット時代へ突入の折り，「習うより慣れろ」と申し上げたい．ちなみに，韓国では全国的に96年度から小学校３年生より週２回（40分×２）の英会話の授業を公式カリキュラムの中に取り入れているという．

How to start a conversation in English
——外国人に話しかける方法

イタリア・ベネチア出身のマルコ・ポーロ（c. 1254-c. 1324）の足跡をたどるように，世界の各地から多くの外国人が“ジパング”（Zipangu）を目指してやってくる．ちなみに生没年にある“c.”は“circa”の略で，「おおよそ」ということ．

一時，西郷さんの銅像で有名な上野の森や代々木公園あたりを中東（Mideast）系のforeignersが「占領」し，社会問題（social issues）となったことがある．

foreignersといっても，「金髪系の白人に代表される欧米人は外人で，それ以外はすべて外国人だ」と一種の差別的表現（derogatory remarks）をつかって私を困らせる友人がいるが，そういう人も「外人嫌い」（xenophobia）という訳ではない．筆者の場合などは逆に“xenophile”だ．-phileまたはphilは複合語の連結形で，「～の好きな人，～を愛する人」のこと．“audiophile”なら「ハイファイ愛好家」となる．

ワスプ（WASP）という言葉がある．これは“White Anglo-Saxon Protestant”の略で，ヨーロッパ（主にイギリス）からアメリカに移住してきた「アングロサクソン系の，新教徒の白人」のことをいい，あちらでは人種的に優位な立場にあるといわれている．

英語に強い関心があり，少しでも表現力をbrush up（磨きをかける）したいと願う人なら，できるだけ多くnative speakersとの生の会話をスタートさせ，意見の交換もできたらうれしいことだろう．

筆者の場合，二十歳前後の頃，自分の用意した台詞（センテンス）を用いて問いかけてはみるが，相手の返事をろくに理解できないことがよくあった．こんな調子では意見の交換をする会話はとてもできない．

最近の日本の地下鉄は随分騒音が低くなったが，あの車中で外国人と会話して相手がいっていることをよく聞き取れるようになれば，その人のリスニング（listening comprehension）は一皮むけたといってよいだろう．

シャイな日本人は同じ日本人に自分の英語を聞かれたくない習性があるようだが，生き馬の目を抜く大都会，いやどんな社会でも他人のことをいちいちかまっていては何事もはじまらない．

昔，会社の友人で三人称単数の動詞の変化も知らないK君がいたが，同僚のY氏から英語を一年習い，basicな表現を身につけ，やがて銀座でattractiveな外国人

女性とお茶を共にしたという．要はやる気の問題だ．現在，K氏は一流の自営（self-employed）のsalespersonになっているが，ここでどんな場合（situation）に外国人の相手が話に乗ってくるかを下記に紹介しよう．

＊電車に陽気なムードで乗り込んできた旅行者風の外人の一行．早速，隣に行って会話をスタートさせる．中近東系の人を除き，ほとんどは英語が少しは話せる．公衆の中なので，安心して会話に乗ってくる．

＊例えば，アメリカ行き（U. S.-bound）の機内．いわゆる西海岸までは結構遠いし，その内にお互いに時間を持て余すことになる．そんな時間帯が絶好のチャンス．“Opportunity seldom knocks twice.”（チャンスは一度）という格言があるが，小さな出会いをできるだけ生かそう．

＊外国人との出会いの穴場としては東京・新宿にある紀伊國屋書店や日本橋にある丸善本店の洋書売り場がある．中でも雑誌類のコーナー辺りは狙い目である．みんな，何となく立ち読み風で，中には時間つぶしの人もいる．また，レジに並んで待っているときは意外に会話になりやすい．外国人同士の社交の場にもなっている．

最近，文部省前にある虎ノ門駅（地下鉄・銀座線）の

入口で，“JET”計画で来日中のカナダ・ケベック市出身の若者に出会った．行き先を探していたようなので，話しかけ，近くのcozyなcoffee shopで一時間近く雑談した．二十歳台前半風（an early twentyish man）の心なごむ青年で，原子力発電所“もんじゅ”で話題になった福井県敦賀市の公立高校で，外国語（英語）指導助手として働いているという．彼の成功を祈りたい．「帰国したら先生になるの？」と聞いたら，そんな計画はまったくないと語っていた．

以前，このような「助手先生」の人権にかんするネガティブな話を聞いたことがある．学ぶ側（生徒）が主役であってこそ，教育の成果が上がり，生徒の中から数多くの“Ichiro”が誕生するのではないだろうか．

教える側（公務員）と教えられる側．その狭間でテープレコーダー役をやらされている感じのJETの「外人先生」．筆者は教育についてはまったくの門外漢だが，文部省主導の同プロジェクトはみんなで見守る必要がありそうだ．ちなみに，JET計画とは，文部省，外務省，自治省が協力して1987（昭和62）年より実施している英語教育改善計画の一環で，“Japan Exchange and Teaching Program”の略である．

ここでクイズをひとつ．英語を公用語としている国をいくつご存じだろうか．文部省の「基準」によれば，アメリカ，イギリス，カナダ，オーストラリア，ニュージ

ーランド，それにアイルランドの6カ国であり，欧米偏重の姿勢がよく表れている．しかし，15年間にわたるテレビ「one point 英会話」で全国的に有名になった，スリランカ出身のアントン・ウイッキー先生（奥羽大学教授）が『日刊スポーツ』(96年2月11日付）紙上で語っていたが，スリランカをはじめアジア各国にも英語を公用語とする国は多い．ウイッキー先生は「英会話の場合は，勉強をする意識を捨て，ゲーム感覚，本音でお互いに接しながら交流すれば表現力が身につくはずだ」と語っている．

官僚的形式主義のことは red tape というが，省庁までが「金髪好み」の傾向が強いのは残念なことである．

JET 計画によって，現在4,000名余りの「外人先生」が来日中で，赴任期間は2年から3年．文部省高等学校課によると，全国の公立中・高校に分散し，生徒のみならず英語の先生の間で引っ張りだこの人気者になっているそうだ．

ところで，文部省のことを英語で何というかご存知だろうか．別に読者のみなさんをからかっている訳ではないが，以前は正式には簡単に “The Ministry of Education” であったが95年7月から “The Ministry of Education, Science, Sports and Culture” とよぶようになっている．

Do you have time ?

——お暇ですか

円高（appreciated yen）の影響で，海外旅行の価格がだいぶ割安になった．JTBの予測によると，96年度の海外渡航者数は前年比11％増の約1,700万人に達するそうだ．

旅行先では，できれば思い出に残るような素敵なハプニングを楽しみたい．また，自分の英会話の慣らし運転もしてみたいものである．

ところで，映画『マディソン郡の橋』（*The Bridges of Madison County*, Robert J. Waller 原作）をごらんになっただろうか．アメリカ・アイオア州南西部を舞台に，農婦フランセスカ（Meryl Streep）と雑誌 *National Geographic* カメラマン，ロバート・キンケイド（Clint Eastwood）の素朴な出会いを描くこの映画は，恋とは何かを教えてくれるとても美しい映画（a bitter-sweet tale of profound love）であった．

"Tea for Two"（『二人でお茶を』）という曲がある．

相手が魅力的なら，ついお茶にでも誘ってみたくなるが，そんなとき，どんな調子で声をかけたらよいだろうか．

“Do you have time ?” といえば，文字通り「時間をお持ちですか」と聞いているわけで，“Are you free ?”「お暇ですか」という意味になる．そこで “Do you have the time ?” と time に定冠詞 the をつけると，特定の時間，すなわち「いま，何時ですか」と聞くときの表現となる．定冠詞 the の用法は以外に奥が深く難しい．

標題 “Do you have time ?” と同じようなかたちで声をかけるならば，“Execuse me, but ～” と前置きしてから “do you have a minute ?” と切り出すのもよい．そして “I'd like to talk with you over a cup of coffee.” と続けて話を進めたい．運（腕）がよければ，“Shall I be your guide ?” と返事があるかもしれない．

「お近づきになりたいのですが」なら，“I'd like to get to know you.” といえばよいのだが，声をかけられた方としては「この人は私の好みではない」と内心思うこともあるだろう．その場合は “He (She) is not my cup of tea.” となる．

もっとも「人の好みはそれぞれ」(“Beauty is in the eye of the beholder.”) であり，チャンスは至るところにある．では，Good luck !

Long time no see !

——やあ！しばらく

標題の表現は親しい仲間（close friends, peers, classmates）との再会を喜びあうときにピッタリである．学校では "I'm glad to see you.", "We are very happy to meet you." と教えられたが，日常の会話では "Nice to see you.", "Nice to meet you." といっている．初めて会う相手には "see" をつかわず，"meet" や "know" をつかわなくてはならない．

筆者の友人であるアメリカ人やイギリス人もよくこの表現をつかっているが，実際 "Hi ! Long time." だけの場合もあるし，言葉よりもアイ・コンタクトが大切なときもある．もっとも "Long time no see." はくだけた表現なので，お偉いさん・先生・先輩には避けた方がよい．

偶然に，知人や友人に出会った場合にはどういうか．例文をつぎに紹介する．

"Oh ! What a pleasant surprise."
"I didn't expect to find you here."
"Fancy meeting you here."
"Small world, isn't it ?"
"What brings you here ?"
"What's brought you here ?"

レセプション会場など，急いでいるときや混んでいる場所で人と会うときに便利なのが "With pleasure." (喜んで) という短い相づちである．"A pleasure.", "It's my pleasure.", "My pleasure.", "The pleasure is all mine." (こちらこそ) もそれぞれ同義の表現．女性の場合，相手が初対面の方なら "I'm very pleased to know you.", "Pleased to meet you." または，単に "Delighted.", "Honored." (光栄です) とでもいいながら，素敵な笑顔でニコッとすればよい．

相手が高貴な方，外国の政府高官，外交官の場合なら上品な表現が必要である．例えば，"Your Highness — I'm very honored to have this opportunity to meet you.", "Your Excellency —It's a great honor to be with you, sir.". 会話を中断し，失礼する場合には，"May I have your permission to leave ?" とお相手の承諾をいただく．これは外国大使館の行事などに出席する方なら必要な表現だろう．

Keep in touch !

——じゃーねー

別れの表現として世界中で通じるのが "good-bye" である．これは "God be with you"（神のご加護がありますように）という表現が変化したものである．もちろん，ほかにも "So long", "See you", "See you later" などがあり，ほかにもヒスパニック系の人が多いアメリカでは，スペイン語である "Adios" も一般的につかわれるようになった．

友人同士なら，"Take care !" を別れの表現としてよくつかう．さらに気安い相手なら，その後に "Behave yourself !"（悪さをするなよ）と続けたりしている．この表現は，親がいたずらっ子をたしなめるときにもよく聞く．

標題 "Keep in touch !" では，もちろん "I will" が省略されており，類似の表現に "I'll be in touch.", "Be in touch.", "Stay in touch." がある．響きのよいフレーズなのでぜひつかっていただきたい．別れ際の決まり文句

なら，“Nice meeting you.”, “Nice talking to you.” がある．

余談だが，ドイツのコングロマリット（複合企業）Simens は “Keep in touch” を，アメリカ最大の電話会社 AT & T は “Reach out and touch someone”, “Stay in touch with the world” を CM のキャッチコピーにしていた．数年前，マイケル・ジャクソン（Michael Jackson）が，セクハラ（sexual harassment, molestation）問題で司直の追及をうけたことがあったが，雑誌などにはこの “Reach out and touch someone” にひっかけて「手を伸ばし，少年たちに触った」というような見出しがおどっていた．また AT & T には別のキャッチコピー，“I'm only a phone-call away.” もあるが，これもなかなか洒落た表現である．

映画『プリティ・ウーマン』（*Pretty Woman*）はリチャード・ギア（Richard Gere）とジュリア・ロバーツ（Julia Roberts）が共演し話題を集めたが，劇中豪華ホテルの総支配人がジュリア・ロバーツ演ずる娼婦（hooker）にいう別れの台詞が，“It's been a pleasure knowing you.” であった．パーティーなどの帰り際にぴったりの表現だ．

ちなみに，ジュリアはデビュー当時オードリー・ヘプバーン（Audrey Hepburn）の再来（reincarnation）と騒がれ，アメリカの OL たちのアイドルになっている．

スレンダーでシンデレラ風なので“Slenderella”のニックネームを持っている.

No problem !

——問題ないよ！

人間社会では，なにかとやっかいな問題が起こりがちだが，お互いに相手の立場（position or where they stand）を理解して，ことを円満に収めたいものである．

世界に目を向けると，中東（Mideast），サラエボ（Sarajevo）に続き，ルワンダ（Rwanda），ブルンディ（Burundi），チェチェン（Chechnya），アフガニスタン（Afghanistan）国境周辺など国際紛争（international conflicts）の戦火は鎮まる気配がない．

一方，日本では阪神大震災（the Great Hanshin Earthquake）に続き，神経ガス事件（nerve gas incidents），警察庁長官狙撃事件（assassination attempts）など，世界に冠たる日本の安全性（security）もずいぶんと怪しくなってしまったようだ．

アメリカ人は，会話中“Okay”と同様に“No problem”をよく口にする．また同じような表現に，学生たちがよくつかう“No sweat !”や“It's a piece of cake.”

があるが，これらは“That's easy.”とほぼ同じ意味で「そんなことは朝メシ前さ」ということである．これまでの「英会話」のテキストには決まって，

“Don't worry about it !”

と書いてあったが，フォーマルな場合を別として日常会話ではまず聞いたことがない．

この世の中，残念ながら至るところで問題が起こるため，つぎのような表現がよくつかわれる．

“What's the problem ?”
“What seems to be the problem ?”
“Any problem ?”
“What the hell are you doing ?”
“What's the matter with you ?”
“What's going on here ?”

ニューヨークに隣接し，“Garden State”の異名を持つニュージャージー（New Jersey）州に住む友人が，筆者の自宅に遊びにきたときのこと，愛猫が彼に突然飛びかかった．そのとき彼がいった言葉は，“What's your problem ?”（一体どうしたの）であった．

音信不通になっていることを弁護する格言に，“No

news is good news.”（便りのないのはよい知らせ）があるが，ジャーナリズムの世界では逆に“Good news is no news.”となるという．残念ながら，この世界では，他人の幸福は商売にはならないようだ．

I have no idea.

——わかりません

何かをたずねられても，わからないときは“I don't know.”や“I have no idea.”と答えれば十分だが，これだけでは少し不愛想である．逆に相手の意見を聞いてみたりすればよいが，そんなときは，

“Any idea ?”
“May I have your comments ?”
“Any comments on this ?”

などの表現がつかえる．

“We'd like to invite your views.”と会議などで意見を求められたら，できるだけ積極的（positive）な考えを発表したい．つぎのような切り出し方はいかがだろうか．

“I must make this clear that ～”

"Let me clarify where our position is.～"
"Let me tell you this.～"

見知らぬ人（a total stranger）に話しかけるときにはどう切り出すか.

"Pardon me.", "Excuse me."
"Sorry to bother you."

などの表現をつかうのが一般的だが，単に "Sir ?" だけでもよい.
例をあげてみよう.

"I'm sorry to bother you, but do you happen to know where the station is ?"
"Do you know by any chance ?"

"by any chance"（ひょっとして）を最後につけると "happen to" のニュアンスが出る.
不躾な質問をされると，「そんなことは知るものか」などといいたくなるが，そのような突き放した表現ならつぎの通りたくさんある.

"Who cares ?", "Who knows ?", "Search me !"

"It's none of my business."

"It's no concern of yours."

いい方にもよるが，こんな調子ではけんかになることもあるので注意しよう．ちなみに，南北戦争（the Civil War, 1861-65）を描いた映画『風と共に去りぬ』（*Gone with the Wind*）のラストシーンでクラーク・ゲーブル（Clark Gable）演じる Rhett Butler のモノローグとして有名なのが "I don't give a damn."（そんなこと，知るもんか）であった．一般の会話では "damn" のあとに "about it" をつけて "I don't give a damn about it." としてつかっている．また，アメリカ人は damn のかわりに，強調語としていわゆる四文字語（four-letter word）をよくつかっている．イギリス人も似たような表現をよくつかっているが，お互いに品のある（decent）言葉で実のある（fruitful, successful）交流を図りたいものだ．

Don't beat around the bush.
——遠回しにいわないで

忙しいアメリカ人の相手にむかって，グズグズと説明をしていると "C'mon ! Don't beat around the bush." (遠回しにいわないでくれ) といわれることがある．それでも核心に触れずにいると，今度は "What's the point ? Come to the point !" (要点は何だ) といわれてしまう．

最初の標題にある表現は「ヤブの周りを叩いて何かをおびき出す」ことから「ストレートにものをいってくれ」という意味であり，類似の表現には "Stop beating around the bush."がある．さらに続けて "What are you driving at ?" と文句が飛んでくる場合もあるが，ここでの "drive at" とは「意図する」ということ．

ところが，結論を急ぎ過ぎてしまうと，"Don't jump to conclusions."といわれる．状況 (situation) にもよるがやはり会話のやり取りは難しいものだ．

手短に話すときの決まり文句 (cliché) の一つに "To

make a long stoy short”がある．これも便利な表現なので覚えておきたい．ほかにも，“in a nutshell”（一言でいえば），“to put it simply”また，“The point is ～”などがある．会議などで“The fact of the matter is ～”というと，少しもったいぶった表現になる．

近年，日本でも特殊法人（state-financed special corporations, quasi-governmental agencies）の見直しがいわれるようになったが，民営化（privatization）や規制緩和（deregulation, deregulatory measures）によってどこまで改善が進んだのか大変心許ない．日本国有鉄道（the Japanese National Railways = JNR）が民営化によりJRになったのは記憶に新しいが，政府補助金漬けでおいしい思いをしている多くの公社・団体（featherbedded public corporations and organizations）のツケが，21世紀にまでわたってわれわれのもとに回ってくるという．民間企業各社の参入で，国際電話料金も少し安く（less expensive）はなったが，長電話は文字通り高くつくので注意したいものだ．

Give me a break !

——いい加減にしてよ

この“break”という単語は“coffee break”や“tea break”でお馴染みだろう．例えば，「お茶にしよう」なら，“Let's have a coffee break.”

一般に，アメリカ人（Uncle Sam）はコーヒー好きなので“coffee break”，イギリス人（John Bull）は紅茶党で“tea break”というが，teaといいながらcoffeeを飲んでいる．もっとも，われわれ日本人も「お茶にしようよ！」といいながらコーヒーなどを飲んでいる．ちなみに昼食のことは“lunch break”という．

“take five”という表現がある．これは同席している仲間に対して「チョット休もうよ！」という意味．もちろん「五分間」とは限らない．“Can we take five ?”または“Let's have a break.”（ひと休みしようよ）も似た表現だ．

以前，標題の英語表現を踏まえた『ギミアぶれいく』という大橋巨泉司会のテレビ番組があった．直訳すると

「少し休ませてよ」となるが，本来の意味は「よしてよ！，やめてよ！」である．

アメリカ人は "Give me a break !" をよく口にする．仲間同士の会話のなかでも，あまり度が過ぎたことをいうと "Give me a break !" といわれてしまうので注意しよう．

ここでクイズをひとつ．

問題：　"High five" とは何？

答え：　手を高く上げ，お互いに手を叩き合う喜びの挨拶．ホームランを打った打者を迎えるときのお馴染みの光景だ．"High touch" ともいう．例えば，"They exchanged a high five." また "We high-fived." と動詞としてもつかっている．差し出す手が下なら "Low five" となる．"Give me five !" なら，「さあ，手を出して」ということだ．

蛇足だが，「難関を突破すること，現状打破」という意味の名詞に "breakthrough" がある．何ごとも現状維持（status quo）では進歩がない．何とか現状の壁（barrier, stalemate）を "breakthrough" し，新天地（frontier）を切り開きたいものだ．

Mind your own business.

——お節介は止めてよ

こんなことをいわれないように，自分の頭のハエだけを追っておこう．出過ぎたことをすると，つぎのような台詞が飛んでくる．

“You stay out of my affair.”（君の出る幕じゃないよ），“It's none of my business.”，“Stop poking your nose into my business.”（他人の事に首を突っ込まないでよ）などなど．度がすぎると“Keep your mouth shut !”，“Zip your lip !”（黙ってろ！），そして最後には“Get out of my sight !”，“Beat it !”（うせろ！）とまでいわれてしまう場合もある．

標題の表現を直訳すると「君自身のことを世話してくれ」となる．「ほっといてよ！」なら“Leave me alone !”がピッタリだ．“nosy”とは「お節介な」，“pushy”は「押しつけがましい」ということ．「親分，先輩」のことは“boss”．そこで“Don't be bossy.”なら，「威張るなよ！」ということになる．このように英語では，よく名

詞の末尾にyをつけて形容詞をつくっている．ほかの例をあげると“craft”という名詞は「技巧，わざ」のことで，「わざ師若乃花」なら“crafty Wakanohana”となる．似た単語に“tricky”があるが，これには「ずるい」とか，「油断のならない」など，ネガティブなニュアンスが含まれる．

“mood”は「気分」のこと．「もしよかったら」と人に意見を聞く場合なら，“If you are in the mood～”と切り出せばよい．日本のDJがよく「moodyな音楽を」などといっているが，実は“moody”は“gloomy”と同じように「不機嫌な」という意味なのでおかしな表現となってしまう．

また，ニューヨークのセントラル・パーク・サウス（南）沿いにリッツ（Ritz）という名の高級ホテルがあるが，その名を借りて“ritzy”（豪華な，優雅な）という単語もある．この沿道には86年のG 7（the Group of Seven Industrialized Nations）蔵相によるプラザ合意（Plaza Accord）で名高いプラザホテル（The Plaza Hotel）をはじめ，日本航空系のEssex House, Helmsley Park Lane, The Pierreなどなど，fancyでpricey（高価）なホテルが覇を競っている．

II　communicative English への道

I have a feeling that～

——～と思うのですが

どんな会議でも賛否両論（the pros and cons）がさまざま飛びかうが，やはり的確な（appropriate）意見を発表したいものである．何かを提案する場合，少し堅い表現だが“I suggest that ～”，“My suggestion is that ～”，“My opinion is ～”などがよくつかわれる．自分の意見を明確に提案する場合なら“I propose that ～”というとよい．相手にソフトな印象を与えたいときは，標題の表現や“I personally feel that ～”，“In my view”，“In my opinion”（私見ですが），“As far as we know”（われわれの知る限り）がつかえる．ちなみに，レセプションの主催者（host）が招待客の健康を祈って乾杯の音頭を取るときには“I'd like to propose a toast to the health of everybody.”といっている．

話は飛ぶが，人はいろいろな感情を抱くものである．「複雑な気分」のことを“mixed feelings”または“mixed emotions”という．別離したはずの元（ex）恋

人にまだ複雑な気持ちを抱いている人なら "He still has a mixed feeling about her." といったところか．「先妻」なら "ex-wife" となる．

「～のような，そんな気がする」という場合なら，"I've got a hunch（予感）that ～"，"I have a gut（本能的な）feeling ～" がピッタリだ．この "gut" の複数形 "guts" はわれわれ日本人がよくつかう「ガッツ，根性」のことである．また，便利な表現に "I feel like ～ ing."（大いに～したい気分だ）がある．カラオケでご自慢のノドを披露したい貴方なら，こんな調子でつかってみよう．"I feel like singing songs at a karaoke bar."

ところで，"karaoke" はすでに英語として定着したようで，最新の "Oxford Advanced Learner's Dictionary"（95年版）にはつぎのように定義されている．

> Karaoke n. recorded music of popular songs without the singer's voice. People use it to accompany their own performance of a song.

声の調子も人それぞれだが，自信のある人に限ってよく人に歌うことを強要するのは困ったことだ．歌いたくないときは，"I don't feel like it."，また「私は音痴ですから」と断るなら "Sorry, but I'm tone-deaf." といえ

ばよい．「カラオケ」の語源は「空っぽのオーケストラ」で，もともと二十数年前に関西の芸能プロダクションが歌手の営業用につかいはじめたものである．今では世界中で通じる国際語になった．

Can I have a word with you ?
——相談したいことがあるのですが

この標題の表現 "Can I have a word with you ?" には「内々で，二人だけで (privately)」というニュアンスが込められているが，"can" の代わりに "could" や "may" をつかえばもっと丁寧になる．「ここだけの話ですが」なら "between you and me" または "just between us" がよい．この場合，声のトーンを落とすと効果がありそうだ．「ちょっと話がしたいのですが」なら，"Do you have a minute ?" または "May I talk to you a minute ?". "a minute" といっても，もちろん「一分間だけ」とは限らない．

相手に話を持ちかける場合の表現は，状況により違ってくるが，ちょっと注意をひきたいときは，"Let me talk to you.", "Let me tell you.", "Let me finish." (最後まで聞いてよ)，"Let me have my say." などがある．"I warn you.", "This is a warning." (警告するよ) となると，かなりきついいい方になる．また，便利な決

まり文句（cliché）としては“I'll tell you what.”（実はこうなんですよ．聞いてよ！）がある．“what”を強く発音してつぎのセンテンスを続けるのがポイントである．“I will”を略した“Tell you what.”の場合も同じだ．

出来の悪い部下，後輩にクレームをつけるときにはどう切り出すか．そんな場合は，“I have a bone to pick with you.”がよい．この表現は親が子供を叱るときにもよく聞かれる．

主題に戻るが，きっぱりと「貴方と二人だけで話がしたい」といいたいときは，“I'd (would) like to see you alone.”．最後に“alone (apart from anyone else)”とつけ加えるのがポイントである．「君の知恵を借りたい」なら，“I have a nut to crack with you.”がピッタリ．“crack”は「割る，解決する」こと．ちなみに，クルミはとても堅いことから，英語では「難題」のことを“a hard nut to crack”ともいう．

I'm not in a position to～
——私は～の立場にはありません

都合の悪い質問をされたときの便利ないい回しで，一種のエクスキューズ，つまり「逃げ」の言葉としてもつかえるのが標題の表現である．例文をあげてみよう．

"Sorry, but I'm not in a position to answer your question."
(残念ながら，私は質問に答える立場にない)
"I'm not authorized to comment on this issue."
(この問題に関し，私には言及する権限がない)

ロシア語の"Nyet"（ニエット）ではないが，単に"No comment"というより，上記の表現を用いたほうが印象はずっとソフトになり，記者会見などで政治家がよくつかっている．記者会見といえば，企業・団体を代表して政策や意見を発表する人のことを，これまで"spokesman"といっていたが，今では男女同権の世の

中ゆえ“spokesperson”，また最新のAP電などでは“spokespeople”という単語がつかわれている．

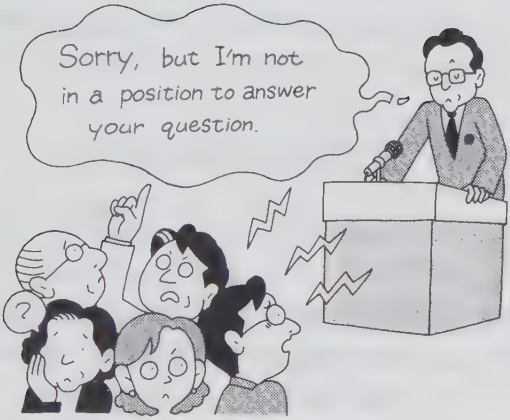
国会（the Diet）での質疑応答を聞いていると，ほとんどの政治家や官僚たちが，いわゆる役人言葉（bureaucratese, officialese）や標題のような表現を交えながら，のらりくらりと時間を浪費しているように見受けられ，私たち納税者（taxpayers）をイライラさせてくれる．

「～する資格がない」という場合なら，“I'm not qualified to ～”または“have no authority over ～”という表現があり，後者は「オーソリティー（略してオーソ）がない」という表現の日本語にもなっている．「試合に負けて参加資格を失った」場合なら，“Because of the defeat , our team was disqualified from the competition.”となる．「予選」は“qualifying round”．

一度説明したのに相手がまだよくわかっていない場合には，つぎのようにいうとよい．

> “I don't think you understand what I'm saying. Let me make my position clear.”
> (趣旨を理解してもらうため，こちらの立場をはっきり申し上げましょう)

アメリカの対談番組では“What I'm saying is ～”と



いういい回しがよく登場するが，これは，アメリカ人が「お互いの意思の疎通が一番大切だ」と考えていることをよく表している．ちなみに，「私たちは考え方が合っている」ことを "We speak the same language." という．

What's the British Council ?
——ブリティッシュ・カウンシルとは

JR 総武線の飯田橋駅で下車し，市ヶ谷寄り出口から神楽坂方面に坂を下ると，すぐ外堀通りにぶつかる．左折して市ヶ谷方面に約200メートル行くと，青レンガ造りの5階建てのビルがある．ここにあるのがイギリス大使館文化部の機能を果たしている非営利団体（non-profit organization）のブリティッシュ・カウンシル（The British Council）だ．

ブリティッシュ・カウンシル（BC）はイギリスの文化，教育，科学，技術など，各分野の現状を PR し，イギリスに対する理解を深める目的で1953（昭和28）年に東京の施設が初めて誕生．その後，年を追って名古屋，京都，大阪にも開設され，先日札幌にも支部ができている．

東京・神楽坂の施設は広々とした図書館や情報サービスを完備している．オーディオ，ビデオテープ，*The Times*（日刊紙）のマイクロフィルム，さらに CD-

ROMも揃っている．図書館には経験豊かな相談員(counsellor, adviser) が待機し誠に親切に対応してくれ，人間的な接触が薄れてきた今日，筆者は痛く感激した．

このBCのパンフにはつぎのように書いてある．

> "The British Council is an organization registered in England as a charity. It is supported by the British Government-through the Foreign and Commonwealth Office (外務省)."

図書館のほか，日英間の人的交流に対する援助や助成金の提供，文化行事・セミナーの開催・後援，さらにイギリス留学を希望する学生に対して，きめの細かい指導もしてくれる．

同時に，付属機関として，86年にケンブリッジ大学の協力によりCambridge English Schoolが開校している．学生のレベルチェック，カウンセリングなどを行ってから入学という段取りになるのは当然として，この学校は学生の身になって教育に当たっているようなので，関心のある方は，一度ご自身でチェックしてみたらいかがだろう．

ここの図書館では「世界的な経済新聞」(world business newspaper) といわれ，桃色 (peach-colored) で

有名な *Financial Times (FT)* や *The Times* を筆頭に，*Daily Express*，*The Independent* の日刊4紙とともに，*The Economist*，*Nature*，*BBC English* などの各種雑誌も閲覧できる．貸出しの便もある．ちなみに，きわどい（racy）写真と記事（banner headline）が売り物の *The Sun* はない．

少し話がそれるが，*The Daily Yomiuri* の“Executive View”（93年4月20日付）に登場したフィナンシャル・タイムズ日本支社長の Simon R. Timmis 氏が語っていたことだが，日本の英字紙の読者（subscribers）数は40万人強で，同紙は90年から東京で印刷を開始して以来，発展を続け，ライバル紙の *Asian Wall Street Journal* を抜き，販売部数が50,000部を越えたという．読者の80パーセントが25歳から30歳の日本人ビジネスマンで，丸ノ内，大手町あたりに読者が集中しているそうだ．

主題に戻るが，このブリティッシュ・カウンシルは少し PR 不足のためか閑散としており，広々とした施設を大いに利用できるので一度訪問することをお勧めする．東京と京都にある図書館は月曜日から金曜日（Monday through Friday）の午前10時から午後8時まで開館している．参考までに，ブリティッシュ・カウンシルの電話番号は東京（03）3235-8031，京都（075）791-7151，名古屋（052）581-2016，大阪（06）282-1984である．

95年秋に誕生した札幌は（011）211 3672となっている。

Please wait to be seated.

——お席にはご案内します

どこのレストランでも，勝手に自分の好きな席に座ることはできない．標題の表現はレストランの入口によく掲げられているもので，ほかに "Please allow us to seat you." と表示してあることもある．たいてい，入口で案内役（usher）が "Do you smoke ?" と聞いてから，smoking area または nonsmoking area へ案内してくれる．もっとも，ロサンゼルスに続いて，ニューヨークでも95年からほとんどの飲食店や公共の場での喫煙が禁止され（to essentially ban smoking in public places）全席禁煙となった．掲示といえば，Broadway の50丁目にあるウインター・ガーデン劇場（82年からミュージカル "CATS" をロングラン上演中）の正面入口に，つぎのような表現があった．

> "Latecomers will be seated at the discretion of the management."

(開演後のお席は当方で管理させてもらいます)

また，ニューヨークの空の表玄関・JFK 空港とマンハッタンを結ぶ地下鉄の最寄駅を循環する無料のシャトル・バスの中にもこんな表示があった．

"Won't you please give these seats to the Elderly or Handicapped."
(老人，身障者にこの席をお譲り下さい)

引き合いに出して悪いが，若さ溢れる日本を代表するゴルフプレーヤー・青木功（英語ではアイサオ・エイオキ［Isao Aoki］とよく紹介される）が主にアメリカで活躍しているのが Senior PGA Tours である．筆者も彼のファンの一人だ．「高齢化社会」は "aging society" という．「老人」は "senior citizen"．外国では「シルバー」云々とは決していわない．面白いいい回しに，「彼は65歳だ」という場合，"He is sixty-five years young." というのがある．

また，分譲アパート（condominium，略して condo）などの入口には，"All visitors must be announced."（受付けを通して下さい）と掲示が出ており，恰幅のよい制服姿のガードマン（security guard）が睨みをきかせている．

All you can eat and drink
——食べ放題，飲み放題

日本では朝食に玉子と海苔がよくつくが，欧米でもbreakfastに玉子はつきもの．目玉焼きがほしいなら，“I'd like sunny-side up, please.”といえばよい．煎り玉子なら“scrambled”，両面焼きなら“over-easy”または“turn-over ”，“easy-turn”ともいう．覚えておくと便利．

「食べ放題，飲み放題」のことを日本ではいつしか「バイキング方式」と呼ぶようになった．これは，そのむかし，帝国ホテル（東京・有楽町）の犬丸一郎社長が考案したネーミングだそうだが，外国では決して“Viking”云々とはいわないので念のため．もっとも英語では標題の表現よりも“buffet”［bəféi］の方がより一般的かもしれない．この語の発音は日本語の「ビュッフェ」とはまったく違うので要注意．ちなみに立食式スカンジナビア料理を“smorgasbord”という．

欧米では朝食つきの安上がり（economical，budget-

style）な民宿をB&B（bed and breakfast）とよんでいる．朝食とランチの中間はブランチ（brunch）といい，今では日本の各ホテルでも人気メニューのひとつになっている．もっとも，“All you can eat and drink”や“buffet”は何のことはないセルフサービス形式で，場合によっては完全な立ち食いもある．余計な心配だが，体育会系のマッチョー（a macho man）が大挙してやってきたらどうなるのだろう．余談だが，パーティーなどで「犬にやるから」といって残りもの（leftovers）を袋に詰めてもらうことがあるが，その袋のことを“doggy bag”という．

美味な料理を楽しむ（to savor）ことは大切だが，カクテル・パーティーなら，むしろ同席者との交流の方に意味がある．交際上手な人は“a good mixer”という．週末，華の金曜日（TGIF = Thank God ! It's Friday.）には少しドレスアップ（dress up）して素敵な出会いを楽しみたいものだ．

I will have a beer.

——ビールをください

アメリカには，国産ビールの銘柄が三十種類以上もある．日本でもおなじみのバドワイザー（Budweiser），ミラー（Miller），クアーズ（Coors），ミケロブ（Michelob）がナショナルブランド．ほかにもプリモ（Primo），シュリッツ（Schlitz），オリンピア（Olympia），ラインゴールド（Rheingold）などがある．輸入銘柄としては，オランダのハイネケン（Heineken），イギリスのギネス（Guinness），デンマークのカールスバーグ（Carlsberg）．変わったところでは，ライムを絞って飲むとよいメキシコのコロナ（Corona），日本のキリン，アサヒ，サッポロなども店頭に並んでいる．ちなみにサントリーはといえば，アメリカではミネラルウォーター事業が中心で，ビールについては中国（People's Republic of China）への進出に力を入れているという．

店に飲みにいくと，まず席に案内され，やがて担当の

給仕が注文を取りにやってくる．標準的な注文の取りかたとしては，“May I take your order now ?”，“Are you ready to order ?” など．もっと丁寧な場合なら，“What would you like to have, sir ?” となるが，こういう時は，帰り際にそれなりの gratuity（チップのこと）が期待されていると考えたほうがよい．カウンターのバーテン（bartender）なら “What will you have ?”，“What will it be, Mister ?” と西部劇のノリで気軽に聞いてくる．

恒例の“バリ・マラソン”の関係で「神々の楽園」といわれるインドネシア・バリ島をよく訪れるが，あちらではビールを注文すると決まって国産のビール・ビンタン（Bir Bintang）が出てくる．インドネシアでは50パーセント以上のシェアを誇っている．バリ島の砂浜には，オーストラリアのビールメーカー，フォスターズ（Foster's）社の名前がはいったビーチパラソルをよく見かける．オーストラリア人に聞いたところ，オーストラリア国内ではヴィクトリア・ビター（Victoria Bitter）という銘柄がもっとも人気があり，フォスターズはもっぱら輸出用につくられているという．

Which do you prefer Whiskey or Whisky ?
——どちらのウィスキーがお好き

世界中の世論の大反対を押し切って行われたフランスの核実験．その影響で95年度の Beaujolais nouveau（ボージョレー地方で収穫された最新ワイン）の日本の輸入量は，最盛期に比べると十分の一に激減したそうである．

「お酒」といっても，好みも種類もさまざまである．ウィスキー，ワイン，ブランデー，ウオッカ，清酒(sake)，焼酎，泡盛，老酒（ラオチュウ）などさまざまである．それに，もっともポピュラーなところでは飲み屋などで「とりあえず」と注文されるビールがある．

イギリス・スコットランドの特産品で「スコッチ」と呼ばれるのが Scotch Whisky である．「スコッチ」の場合のスペルは Whisky だが，アメリカのケンタッキー(Kentucky）やテネシー（Tennessee）州あたりでつくられている Bourbon Whiskey, Jack Daniel's などには Whiskey と "k" の隣に "e" が入っている．ちなみに，

日本のウィスキーメーカーにも「――ウヰスキー」と表記する会社があるが，英語表記には伝統的にすべてスコッチ風のスペリングを踏襲している．

ところで，*Los Angeles Times* が，アルコール中毒によるロシアの驚くべき荒廃ぶりをレポートしていたので一部を紹介させていただこう．93年度の資料によると，ロシア人は一人あたり年平均14.5リットルのアルコールを飲んでおり，男性に限れば一日0.25リットルと世界最高の消費量だという．国民は飲みすぎ（binge drinking）で健康を害しており，男性の平均寿命（life expectancy）はなんと91年の63歳から94年現在57歳になってしまったという．ちなみに厚生省の統計（平成6年度）によると，日本人の平均寿命は男性が76.57歳，女性が82.98歳である．

96年春に行われたロシア大統領選挙で，候補の一人だったレベジ（Alexander Lebed, 1950年生まれ）退役中将は，酒飲み（drunkard, alcoholic）として有名なエリツィン（Boris Yeltsin）大統領を揶揄して，

「ロシアに一人くらいは酔っていない男がいてもいいだろう」
(There should be at least one man in Russia who is sober.)

と宣言し，ただちに断酒に踏み切ったそうだ．実際，それが功を奏したのか，選挙結果では彼はエリツィン，ジュガノフ（G. Zyuganov）の両氏に続き3位につけた．エリツィン大統領は早速，レベジ取り込みにかかり，安全保障会議書記（Russian Security Chief）に任命し，ジュガノフ氏との決戦投票（run-off election）に勝利したことは記憶に新しいところである．ところが，10月に入ってエリツィン大統領から電撃解任されてしまった．が，レベジ氏は根強い国民人気を背景に，脚光を浴びる指導者として再び返り咲くものと大いに期待されている．

Let's split the bill.

——割り勘にしよう

レストランなどでは，食事が終わる頃になるとウェイターがよくコーヒーを勧めにやってくる．そのときの台詞は決まって "Care for coffee?" (コーヒーはいかが) である．この場合の"care for"は「好む，関心を持つ」ということであるが，care という単語はいろいろな意味があるので気をつける (take care) 必要があるだろう．

例えば，誰でも知っている "care of" (略c/o) は「気付」のことである．take care (世話をする，面倒を見る) をつかって "I have to take care of my children on Sunday." また「さよなら」の代わりによく "Take care!" もつかう．

標題の文にある split という単語は「割れた」とか「分裂した」という意味で，ボウリング用語や，"split-finger fastball" というように野球用語としてつかわれている．野茂投手のような「割れた爪」ならば，"split

fingernail" となり，ボクシングなどで勝敗の判定が割れたときは，"split decision" という．

また bill は「紙幣」という意味もあるが，この場合は「勘定書」である．「勘定書」には tab という語もあり，「割り勘にしよう」は "Let's split the tab." ともいえる．ほかにもいろいろないい方があるが，仲間同士の食事では，素直に

"Let's go fifty-fifty."
"Shall we split it fifty-fifty ?"
"Let's go Dutch."

といえばよい．

支払いを別々にしたい場合なら，ウェイターに "Separate checks, please." といえば，別々に勘定書を持ってきてくれる．また「私がおごるよ」と先輩風を吹かせたいなら，以下の通りメニューは豊富だ．

"Be my guest !"
"This is my treat."
"It's on me."
"I'll buy you dinner."
"Let me buy you a drink." (一杯おごるよ)

接待の場合なら，

"We'd like to invite you and your wife to dinner."
"You are my guest tonight."

などの表現があるが，後者は「今晩は任せておいてくださいよ」といったニュアンスである．

このほか，"foot the bill" という慣用句がある．

"Let's go and drink. I'll foot (to pay) the bill."

と上司に誘われたなら，遠慮せずにしっかりとおごってもらえばよい．

「大いに飲み食いの接待をする」ことを "wine and dine" という．最近いわゆる「官官接待」が社会問題になっているが，英語でいえば，

"They lavishly wined and dined central government bureacrats almost every month."
(彼らは中央省庁の官僚を毎月のように飲み食いで接待した)

などとなる．

余談になるが，国際的に著名なレストランなどでは，たいてい入口に "Dress Code in Effect" という表示が出ているが，つまり「正装してください」ということであ

る．あるレストランでは，妻と正装して行った宵はハープ奏者の近くの上席に案内されたが，翌日軽装で行ったところ，柱の陰に案内されてしまったことがある．ホテルニューオータニ（東京・紀尾井町）に，ポリネシア料理で有名な「Trader Vic's」というレストランがあるが，入口にはつぎのような掲示が出ていた．参考までに記しておこう．

> "We respectfully request our guests to note that persons wearing slippers, sneakears, shorts, T-shirts, or frayed clothing are not permitted to enter Trader Vic's restaurant."

on a lazy Sunday afternoon

——日曜日の昼下がり

会話の流暢さにおいて，“バイリンギャル”の帰国子女（expatriates）にはとても適わないが，国際的なビジネスマンや国際交流にあたる貴方（people associated with international deals or negotiations）は，そんなことに惑わされることはない．要は（The point is）自分の意志を相手に正しく伝え，その相手のいっていることが理解できればそれで充分だ．しかし，いうは易く，実践はなかなか難しい（Easier said than done）．

遅く起きた日曜日．暇つぶしに，近くの市立図書館へ新聞，雑誌をのぞきに行ったときのこと．長引く（prolonged）不況（sluggish economy）のせいか，最近は元気そうな年配者（senior citizens, people over the hill, a has-been）や各層（all walks of life）の利用者がやけに多い．

都立日比谷図書館にはもちろん比べようもないが，近頃のローカル図書館にもなかなか充実したものがある．

邦字の各一般紙，経済紙，スポーツ紙，さらに定期刊行物（periodicals）の月刊誌や週刊誌を筆頭に，*Japan Times*，*International Herald Tribune* それに週刊の *TIME* や *Newsweek*，*The Economist* なども勢揃いしている．英字メディアは読者が限られているため，かなり独占的に読めるので有難い．

閲覧室へ行ったら，白人青年が英字紙を読んでいた．頃合をみて声をかけると，アデレード（オーストラリア）出身だという．よくいうところの“オージー・アクセント”はまったくなく，non-native speaker の日本人がコメントするのも僭越だが，とても美しい英語のつかい手であった．

同じ市内在住のこのオーストラリア人（Aussie）は，都内の有名な英会話スクールの先生で，この図書館をよく利用しているという．知り合ってから，友人ベースの英語の先生として交流している．彼は，ニュージーランドを旅行中に日本女性と知り合い意気投合し，昨秋結婚したばかりで，新婚ホヤホヤのいい雰囲気だそうだ．Congratulations！

よく American English と Queen's English のどちらの英語がベターかと論議することがある．そのほか，インド人のつかう独特な巻き舌アクセントの英語，香港チャイニーズの英語など，非常に多用なスタイルの英語がある．Filipino(a)のあやつるスペイン語風の英語は，な

かなかリズムがあり筆者は好きな方だ．一方，南アフリカのマンデラ大統領の英語はちょっと follow（理解する）しにくい．

いずれにしても，われわれは通じる standard English をまず身につけるよう努力することが肝要だ．筆者の場合は形にとらわれず，自分がつかえるパターンをひとつずつ自分のモノにして，listening, writing を含めた語学力，特に oral or verbal experssion の強化（to beef up）を図りたいといつも願い，実行している．

I'll be right with you.

——しばらくお待ち下さい

海外旅行での楽しみの一つにショッピングがある．場合によっては店頭で待たされるようなこともあるので，そんなときのリスニングが大切になる．誰もが知っているのが "Just a moment, please.", "One moment.". そのほかに，"I'll be with you in a moment." などがあるが，それぞれ「ほんのちょっとだけ」という気持ちが込められている．標題の表現にある "right" にも同様のニュアンスがあるが，ごく一般的な「お待ちください」という表現なら "Wait a moment.", "Wait a second.", "Wait a minute." 更に，"I'll be back soon." などとなる．"I won't (will not) keep you long." となると「手間は取らせません」と少し幅を持たせた意味になる．

人との約束（appointment, engagement）の時間は厳守したいものだが，長く相手を待たせた場合には，"Sorry to have kept you waiting." や "Please forgive me for being late." 更には "Please accept my apol-

ogies.” といって平身低頭するしかないだろう．

電話中に「ちょっと待って！」という場合には，“Hold on.”, “Hang on” (「しっかりつかまって！」という意味もある)．切らないでほしいときは，“Don't hang up.”．映画などによくみかけるように，人に銃口をつきつけながら「ちょっと待て！」などというときの台詞は “Hold it !” である．また “Freeze !” という表現は，アメリカでの悲劇的な日本人留学生射殺事件によって誰もが知るところとなった．

“Time is the great healer.”
(時は偉大ないやし手)

という格言があるが，友人が何かで落ち込んでいたら，つぎのようにいってあげるとよい．

“Time takes care of everything,”
“Time will tell.”
(時が解決するよ)

I will give you a special price.
——貴方には特別サービスしましょう

買物をしていて，商品の値段が高過ぎると思うことはよくあるが，そんなときは "It's too expensive.", "That's too much." または "I can't afford to." (余裕，予算がありません) と実際に口に出していってみるとよい．すると，よく店員から標題のような表現が返ってくるが，これは単なる決まり文句なので鵜呑みにしてはいけない．そんなときは，下記のような表現をつかってバーゲン (掘り出し物) を勝ち取ろう．

"Can't you make it cheaper ?"
(もっと安くしてよ)
"Don't you have less expensive ones ?"
(もっと安いのはないの)
"Give me a bit more discount."
(もっと安くしてよ)
"It's more than I can afford."

(そんな予算はない)

"Isn't there any way you can help me ?"

(なんとかならないの)

アメリカのデパートでは日本のような過剰包装はしないが，贈り物の場合なら "Will you gift-wrap this, please ?" といえば，それなりにラッピングしてくれる．

「この紙幣をくずしてください」という表現なら "Will you break this into smaller bills ?". "break"の代わりに "change" をつかってもよい．bill は紙幣のことだが，高額の札を出してチップのやり過ぎにならぬように注意．また，品定めや冷やかし (browsing, to browse) をしているときに店員が近寄ってきたら，ズバリ "I'm just looking.". これが一番効果的だ．

ニューヨークのミッドタウンを歩いていると，店頭に "Going Out Of Business" と閉店セールの看板がよく出ている．日本のパチンコ屋の「本日開店」のようなもので，客を集めるテクニックの一つだ．ついでながら，「今日はこれで終りにしよう」ということなら，"Let's wrap it up.", "Let's call it a day."という．

III　アメリカとの出会い

Assassination

——暗殺

95年11月5日（日曜日）の早朝5時頃のこと，テレビのスイッチを入れCNNにチャンネルを合わせる（tune in）と，いきなり「ラビン・イスラエル首相（Israeli Prime Minister Yitzhak Rabin）が暗殺された」との臨時ニュース（breaking news）が飛び込んできた．

ラビン首相は93年9月，パレスチナ解放機構（PLO, the Palestine Liberation Organization）のアラファト議長（Leader Yasser Arafat）と歴史的な和解を実現し，94年度のノーベル平和賞を仲よく受賞したばかりであった．享年73歳．両首脳の調停役（troubleshooter）を務めていたアメリカのクリントン大統領は，悲報に接した直後の記者会見（press briefing）で涙を押さえながらつぎのように語った．

"Mr. Yitzhak Rabin was my partner and my friend. I admired him. I loved him very much.

Words can't express my full feelings. Let me say, Shalom habern, Good-bye, Freind."
(イッハク・ラビン氏は私の同僚かつ友で，敬愛に値する方でした．私の今の気持ちを表すことはできません．さらば友よ．やすらかに眠りたまえ)

このニュースを聞き，数年前にデトロイト郊外のディアボーン（Dearborn）市にあるヘンリー・フォード博物館（the Henry Ford Museum）を訪れたことを思い出した．同博物館には，自動車や列車などアメリカ建国以来の各種交通にかんする展示品（memorabilia）が陳列されている．なかでも心を奪われたのが，1963年11月22日第35代アメリカ大統領J・F・ケネディ（John Fitzgerald Kennedy）が，テキサス州ダラスでのパレード中に凶弾に倒れたとき，ジャクリーヌ（Jacqueline）夫人と乗っていた黒塗りのオープンカー，リンカーンであった．

ケネディが暗殺されてからもう三十年（three decades）以上も経つが，その日のことは今もよく覚えている．早朝，辺りはまだ真っ暗だった．前夜，筆者はFENラジオをつけたまま，眠り込んでしまっていたらしい．夢うつつのなかで，アナウンサーが何度も繰り返した言葉が耳に残っている．

"The U. S. President John F. Kennedy was assassinated."

migrant workers

——出稼ぎ労働者

イタリア・ジェノバ出身のコロンブス（Christopher Columbus）は，スペインの傭兵（a hired hand）として何度も遠征したようである．そしてアメリカ大陸を「発見」し，「歴史上の英雄」になったのは1492年のことであった．ニューヨークにあるセントラル・パーク（Central Park）の最西南端，Columbus Circle の一角には彼の銅像が建っている．

しかし，最近になって，コロンブスに対する評価が変わってきている．「インディアン」（Indian）とよばれていた原住民の立場から考えてみると，彼は「英雄」どころか「侵略者」だったということになる．「インディアン」も native American とよばれるようになった．

アメリカは移民の国である．native American の人々を除けば，誰でもそのルーツ（roots）をたどると，いずれかの国や地域からの移住者（migrant）ということになる．もちろん，アジア系，アフリカ系の人も多いわ

けで，アメリカ人＝白人と早合点すると失礼に当たることが多いので注意しなくてはいけない．

一説によると，不法（illegal）滞在者を含めると，日本にはアジアからの出稼ぎ労働者が約100万人いるという．彼らは一種の渡り鳥（migratory worker）といえるだろう．また，週末の香港サイド（島側），スター・フェリー発着所に隣接するスタチュー・スクエア（公園）には，フィリピンからの女性労働者（主に live-in-maids, nannies，香港では阿媽（あま）という）が集合して県人会兼情報交換会を開いており，独特の雰囲気を醸し出している．現在，海外で働くフィリピン人の総数は約500万人といわれており，フィリピンの総人口の十分の一にも達している．出稼ぎ労働者が主に仕事としているのは，いわゆる３Ｋ（きつい，汚い，危険）職種であるが，英語では３-D jobs という．すなわち，difficult, dirty, dangerous ということである．

ところで，相手の出身地をたずねる場合は，

“Where are you from ?” が手軽な聞き方である．

正確に聞きたいのなら，originally をつければよい．

“Where are you from originally ?”

最も簡単な聞き方は，

“Where are you from ?”（どこの方ですか）となる．

Black vs. White

——黒人対白人

O・J・シンプソン（Simpson）裁判における陪審員（jurors）による全員一致（unanimous decision）の無罪評決（verdict of not guilty）は，黒人社会からは大歓迎されたが，犠牲者の遺族をはじめとする白人社会には，失望と落胆の声がこだました．アメリカには検察側と被告側が話し合いで事件に決着をつける司法取引（plea bargaining）もあるが，その司法制度には何か疑問を持たざるを得ない．

一年余りにわたって，この事件（double-murder trial）はあらゆるアメリカ人の耳目を奪った（mesmerized）が，ロサンゼルスのハイウエイに展開し，全世界にテレビで生中継（live TV coverage）されたあのカーチェイスは，結局はマルチタレント・シンプソン氏の演技だったのだろうか．

最近，マスコミなどで“political correctness”（差別のないこと，政治的公正さ）運動による「差別語是正」

が行われているが，残念ながら筆者には形式的なものにすぎないと思われる．黒人（blacks）はいまや African-American といわないと「公正」ではないとされる．シンプソン裁判では，被害者の遺体を最初に発見したロサンゼルス警察署刑事で白人（white man）のM・ファーマン氏が，黒人のことを指す差別（derogatory）語を何度も口にし証拠をでっち上げた（to frame）とされ，無罪評決が出る大きな要因となった．

英語では「中傷，非難する」ことを slur，「人種的侮辱をする」なら racial slur というが，いったい，いつの日になれば人種差別（racism, racial discrimination）が過去の遺物になり，これらの言葉がつかわれずにすむようになるのだろうか．

Take the A-Train !

——A列車で行こう

予算の限られた旅行者（budget travelers, budget-minded backpackers）のみなさんにニューヨークの耳寄りな情報（tip）を紹介しよう．日本から直行便でJFK空港に到着．出発から約12時間振りの土の感触がうれしい．早速，CIQ（税関・入管・検疫）の手続きを済ますと，いよいよアメリカ（the States）本土への第一歩だ．

まず，黄色の大型シャトル・バスが各到着ターミナルと最寄りの地下鉄であるHoward Beach JFK Airport駅を循環している．このバスはワンマン（one man）運行で無愛想だが，無料なので我慢しよう．

ジャズ・ファンなら標題にあるデューク・エリントン（Duke Ellington, 1899-1974 ）の曲をご存知だろう．この列車こそ，JFK空港とニューヨークのダウンタウンを結んでいるA列車で，ペンシルバニア駅（Penn Sta.）まで約60分．この駅からA列車に乗ってマンハ

ッタン（Manhattan）へ向かえば，どこで降りても均一料金の1.5ドル．これはたいへん安い．降りずにそのまま乗って北上すると，コロンビア大学（Columbia Univ.）の方まで直行できる．

参考までに，Carey 社のバスは空港とグランド・セントラル駅（Grand Central Sta.）を結び，片道13ドル．タクシー（yellow cab）なら40ドル前後．いずれにせよ，予算にあわせて，“Pick up your choice, please.”である．ついでながら，「選択の余地がなかった」というときは，“I had no choice.”という．

ニューヨークの地下鉄と乗合バスは共に市営で，単一料金である．地下鉄車内での治安の悪さがときおり話題になることがあるが，バス車内での事件というのは聞いたことがない．

Have a super time in New York !

Where to ?

——どちらまで

ニューヨークなどでは，タクシーに乗り込むとよく“Where to ?”と聞かれる．ここでは，運転手（cab driver）が白人であることはほとんどなく，もっぱら中南米系（Latinos, Hispanic），またアジア系（Asians, Orientals）の移民であることが多い．英語が「怪しい」(unpolished）ことがよくあるので，そんなときは，ゆっくり，はっきりと行先を説明したほうがよい．筆者には日本人には馴染みのないアメリカの地方都市をよく旅した経験もあるが，トラブルを避けるために，タクシーをつかうときはわざわざ行先を書いたメモを運転手に渡したこともある．

例えば，「ケネディ空港まで行って下さい」なら，“Take me to JFK Airport, please. ”とか“Drive me to JFK, please.”といえばよい．ほかにも“Give me a lift to JFK Airport, please.”などがある．「駅まで送りましょうか」なら，“Shall I give you a lift to the station ?”

となる．ちなみに，下車する際，ドアは自動ではなく乗客本人が閉めることになっているのでお忘れなく．

マンハッタン（Manhattan）の中心街からJFK, Newark両空港までの料金（taxi fare）は約40ドル．日本でいえば羽田空港に当たるラグアーディア（La Guardia）空港までは，その約半額である．事故防止のため，空港では指定のタクシー乗り場（taxi stand）から正規のイエローキャブ（yellow cab）に乗車すること．これは世界のどこの都市でも“must”だ．

ロンドン・ヒースロー空港（LHR）でのこと．イギリス（the United Kingdom, Great Britain）は二度目という同行の某氏は英会話も達者だということだった．ご存じの通り，ロンドンのタクシーは例の背の高い黒塗りのAustinのボックス型で，内部が広くて乗りやすい．彼は分乗したタクシーで“Take me to Tara Hotel.”といったが，彼の乗ったクルマはなぜか遠く“Tower Hotel”にまで行ってしまい，降りる時に料金でもめたそうだ．原因はいうまでもなく運転手が“Tara”と“Tower”を取り違えたことにあった．筆者も同じ表現をつかったが，ホテル名の後にダイアナ妃の住む地域名のケンジントン（Kensington）をつけたため，無事にたどりつくことができた．

Where is the john ?
——トイレはどこにあるの？

マンハッタンを歩いて探訪するといろいろなものを発見できるが，意外にもお手洗いがなくて困ることが多い．公園にもあるにはあるが，安全のため（security-wise）決して利用してはいけないとまでいわれている．

日本語では「お手洗い」のことを「トイレ」というが，英語では決してそうはいわない．ジャック・ニコルソン（Jack Nicholson）とジェシカ・ラング（Jessica Lange）主演の『郵便配達は二度ベルを鳴らす』（*The Postman always rings twice*）の冒頭シーンで無頼漢の彼（ニコルソン）が発するのが標題の台詞である．ここで，“the john”が「お手洗い」の意味になっている．John はアメリカ人男性の典型的な名前で，男性一般のことを John とか Johnny と呼ぶことがあるが，そこから紳士用お手洗いのことを the john と記すのである．

普通，英語で「お手洗い」は restroom や washroom という．公衆用なら public restroom，ホテルや家庭で

は bathroom．紳士用は men's room，the gents．婦人用は ladies' room, ladies'．化粧室は powder room．この powder room に関しては "May I go and powder my nose ?" などの表現をよく耳にする．別の表現としては，lavatory, latrine, loo（イギリス英語），water-closet などがある．

また，お手洗いに行くときの少し洒落たいい回しには，女性の場合なら，"I must go and pick flowers." 男性なら "I must go and water the lilies.", "I'd like to wash my hands." など，さまざまないい方がある．

ニューヨークの代表的なデパート Bloomingdale's（花の咲く谷）には，4階と6階にしかお手洗いがない．それも日本のデパートのような大理石風の豪華な施設と異なり地味な職員兼用のもので，しかも目立たないところにある．また，「世界最大のデパート」をキャッチ・フレーズに名を売った Macy's の場合も，紳士用は4階と7階にしかない．これは世界的な傾向だが，多くのホテルは1階の入口近くにはお手洗いをおかないし，所在の表示も地味にしてある．

では，一番便利なところはというと，マクドナルドなどのファースト・フード店にあるお手洗いである．筆者はある日，友人と劇場街をブラブラ歩いていたときに number two（幼児語でウンチ）を催してしまったが，マックに飛び込み助かったことがある．覚えておいて損

はない．ついでながら，number one とはオシッコのことである．

ところで，都内にある百余年の歴史をほこる英国系商社の men's room で，つぎのような楽しい graffiti（落書き）を拝見したことがある．原文のまま紹介する．

"Step forward, please. Your honest john is not so large as you think."

出国直前に成田（NRT）のトイレに入ったときのこと．たまたま，そこには筆者のほかにだれもいなかったのだが，突然，4，5人のヒゲの巨漢外国人グループが入ってきて，肝を冷やした．何ごともなかったが，筆者にとってはとても恐しい体験であった．

If I were you

——私だったら

久し振りに休暇（paid vacation）を取って，人種のるつぼ（melting pot）ニューヨークに遊びに行ったときのこと．出発前から風邪気味であったが，案の定，現地に到着早々寝込むはめになり，たいへん困った．いろいろなところに連絡はしてみたが，運悪く通じず，結局，カーネギー（Carnegie）ホール近くにある，宿泊していたホテルの副支配人（Assistant Manager）に泣きついた．以下は電話での同氏とのやり取り．

> "I'm sufferring from a severe cold. I'm not feeling well. I feel very sick. I need to see a doctor now. Could you call me a doctor ?"
> (風邪がひどいので，医者を呼んで欲しいのですが)

すると，返事は

"The charge would be more or less $250."
(250ドル前後はかかりますよ)

そして，副支配人はつぎのように補足した．

"If I were you, I'd (would) take a taxi, and go to, say, St. Lukes Roosevelt Hospital."
(私だったらタクシーで，例えば聖ルカ・ルーズベルト病院へ行きますよ)

この "If I were you" という表現は，相手に何かアドバイスする場合，または意見を求める場合 (If you were me) にも便利なパターンなので，丸ごと覚えておきたい．風邪の方は近くのデリで飲み薬を買い求め，何とか直した．

余談だが，前述の病院は80年12月8日，セントラルパーク西 (Central Park West) に面した自宅のアパート (Dakota House) 前で狂信的なファンの凶弾に倒れた故ジョン・レノン (the late John Lennon) が担ぎ込まれたところである．この日は，やや年配の方にとっては，第二次世界大戦 (World War II) の開戦記念日 (anniversary) だろう．オノ・ヨーコさんとの一粒種，ショーン・レノン (Sean Lennon) は，現在，コロンビア大学 (Columbia Univ.) に学び，この父にしてこの

子あり（Like father, like son）ということか，音楽活動にも取り組みはじめているという．

Step on it !

——急いでくれ！

フィラデルフィアから列車 Amtrak に乗って，ニューヨークの終着駅，ペン・ステーションで下車，大至急イエローキャブに飛び乗って，マディソン街55丁目角にある AT & T 本社に向かったときのこと．約束の時間が迫っていたので，運転手（cab driver）につぎのようにお願いした．

> "To AT & T. We are desperately in a hurry. We got no time to lose. You know, we've got to be there by two o'clock."
> (AT & T まで．本当に急いでいるんだ．時間がないから 2 時までに頼むよ)

すると，黒人の運転手は平然といい放った．

> "No kidding. What time of the day do you think

it is ?”

（ご冗談を．今何時だと思ってんの？）

マンハッタンの道路は，ご存じの通り南北の大通りがAvenue（街），左右の横断道路がStreet（丁目）である．ワシントン・スクエア公園（Washington Square Park）以北はほぼ道路が碁盤の目のように走っているので，道に迷うことはない．中心街は大阪以上に一方通行（one way）が多いので，運がよければ意外に早く目的地までたどりつける．南行の一方通行は奇数（odd number）の一，三，五番街で北行は偶数（even number）の二，四，六番街となっている．

「急いで！」なら“Hurry up !”と習ったが，アメリカではよく標題の“Step on”または“Step on the gas”をつかう．これらは自動車王国アメリカならではの表現で，「アクセルを踏む」動作に由来している．また，ニューヨークにはプエルトリコなどの中南米系（Hispanics, Lations）の移民（immigrants）が多く，“Pronto !”（スペイン語で「早く」の意）もよくつかわれるようになった．ちなみに，最近都内各所に「Pronto」という名称のダイニングバーがオープンしている．

そして，結果的に「間に合った」ときは“I made it.”となる．約束の時間を提案するなら，例えば“Can you make it at seven ?”（「七時の都合はいかがですか」）となる．つけ加えておくと，この“make it”のあとに前置詞 with をつけると「誰かと関係を持つ」という意味になってしまうから要注意である．友人が「昨年のヨーロッパ旅行はよかった」と何度もいうのでよく聞いてみると，“I had an affair in Paris.”とニヤついていた．この場合の affair は，“love affair”のことである．

Is this the end of the line ?
——これが列の最後尾ですか

話題になっているレストランや年末ジャンボ宝くじなら日本でも行列ができるが，アメリカでは何にでもすぐ行列（stand in line, wait in a queue）ができる．

東京・西武新宿駅界隈と似た雰囲気が漂うニューヨーク・Port Authority Bus Terminal（アメリカ最大のバス発着所）の二階案内所に並んだときのこと．いよいよ自分の番（my turn）になったが，窓口は治安上，鉄格子入りの厚いガラスで厳重に囲まれており，声が通りにくい．筆者は慣れない「会話」に大汗をかいた．

終着駅，終点のことを end of the line ともいう．早朝の長距離バスの利用客には白人がほとんど見当たらず，中南米系の労働者風の人が多かった．

あちらではトイレ（restroom）にも一本の列ができている．空港のチェックイン・カウンターでも，“Next!”と声がかかれば，もちろん，先頭の人に優先権がある．「ここは先着順です」という説明をするなら，“We

serve on a first-come, first-served basis." といえばよい．また行列を乱す人のことを "queue-jumper" という．最近は，日本の銀行にも現金自動預払い機（ATM = automatic or automated teller machine）が普及して，並んでサービスを受けることが当たり前になってきた．ATM と似た装置の現金自動支払い機に cash dispenser (CD)がある．

日本や韓国企業のネオン（neon [níːan]）が目立つタイムズスクエアー（Times Square）にはブロードウェイ・ミュージカル（B'way Musical）の当日券が割引で購入できる TKTS（切符売場）がある．いつも長蛇の列ができているが，時間に余裕のある方はどうぞ．

旧聞に属するが，90年春，15年にわたる史上最長のブロードウェイ・ミュージカル「コーラスライン」の閉幕が発表された日の翌朝，*International Herald Tribune* 紙（通称ヘラトリ）に下記のような大見出し（banner headline）がおどっていた．

"End of the Line for A Chorus Line"

「コーラスライン」は，全編を通してミュージカルのダンサー役（その他大勢）出演希望者のオーディション（screening）風景を描いた，汗と涙の感動的な物語であった．

Jaywalk at your own risk.
——信号無視は自分の責任で

交通渋滞（traffic jam）は大都会にはつきものであるが，ニューヨークでは警官（traffic officer）までが平気で信号無視（jaywalking）をすることがあるので驚きだ．しかし，警官がやっているからといって「みんなで渡れば怖くない」ということはないだろう．標題にもある通り，あくまで“jaywalk at your own risk”（「信号無視は自分の責任で」）ということを肝に銘じておこう．

これに似た言い回しに，“It's totally up to you.”や“It's up to you to decide.”がある．つまり，「すべては貴方次第です」ということだ．いかにも個人主義（individualism）の徹底したアメリカ人らしい英語表現である．これらの表現は，人に何かを勧めるときの前置きにつかえる．例えばセールスマンの場合，

“It's up to you to decide, but this is a good oppor-

tunity for you."
(貴方がお決めになることですが，とてもよい機会ですよ)

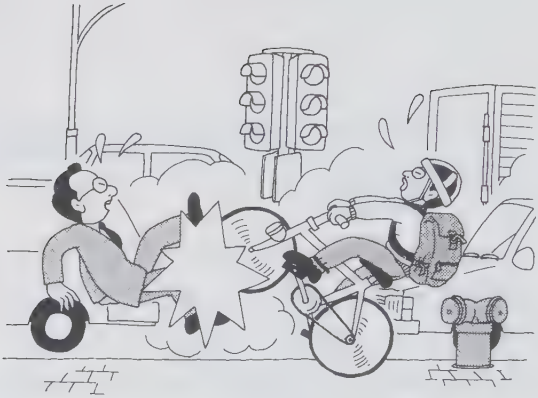
しかし，押し売りのような雰囲気になるとつぎのようなセリフが飛んでくる．

"You are wasting your time."
(時間のむだですよ)

日本では子供に対する教育をはじめ，何かと過(excessive) 保護になりがちだが，アメリカでは一般用プールにまで "Swim at your own risk" という表示がある．

ニューヨークの midtown では，自転車に乗った黒人のメッセンジャー（宅配便）が数珠つなぎの渋滞（a bumper to-bumper traffic）の間隙を飛ばして行くので，注意しないと危険な目に遭うこともある．彼らはマンハッタンの街の風景（streetscape）の一部にもなっているのだが，筆者は jaywalking 中，不覚にもこの自転車にぶっつけられ「すごく痛い」経験をしたことがある．幸いにも，2，3日体調が悪くなっただけですんだが．

とはいえ，信号無視は違法（against the law）であり



危険なので，実行するときには気をつけるにこしたことはない．私の場合，日本の道路は右側通行だが，アメリカは逆であることを一瞬忘れてしまい，左側を確認するのが遅れたために痛い目に遭ったのであった．

余談だが，カナディアン・ロッキー（the Canadian Rockies）の避暑地ジャスパー（Jasper）で遊んだことがあるが，何とそこでは歩行者に優先権が与えられており，クルマの方が止まって（make way for pedestrians）くれる．日本ではちょっと考えにくい（unbelievable）ことだが，「何ごとも余裕を持って行動したほうがいい」ことを教えられたような気がした．

This is how I make my living.
——私はこうして生活しています

ワシントン・スクエア公園は，メグ・ライアン（Meg Ryan）とビリー・クリスタル（Billy Crystal）が共演（co-starring）した映画『恋人たちの予感』（*When Harry Met Sally*）の冒頭シーンにも登場するが，週末ともなると大道芸（street performances, street musicians）で花盛りとなり，実力のある見事な演技には知らぬ間に幾重にも人垣ができあがる．ニューヨーク大学（NYU）が隣接しており，公園の周辺にはアカデミックな雰囲気も漂っている．

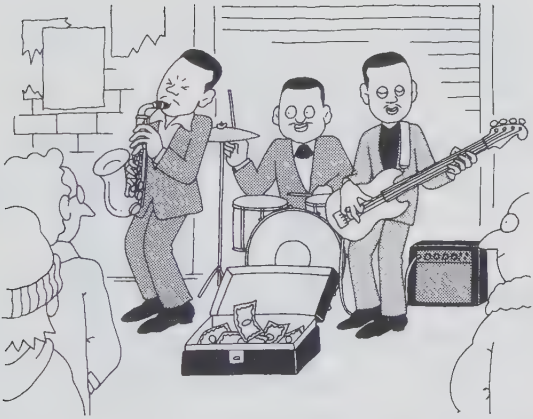
マンハッタン（Manhattan）の目抜き通り・五番街（Fifth Ave.）は，アーチ型の門で有名なこの公園から北に伸びている．芸人たちは，グランド・セントラル・ステーション（Grand Central Station）のコンコースや地下鉄のホームでも芸を披露しており，腕に覚えのあるプロ級が結構いるので相当楽しめるが，祝儀（tip）を出すか否かは，もちろん貴方次第である．

“Will you give me a helping hand ?”（ちょっと手を貸してよ）などといいながら，観客の中から子供を上手に引っぱり出し，巧みな話術を交えながら野次馬を魅了する．出し物の最後には相棒が決まって帽子を回し，周囲のギャラリーから心付け（donation）を仰ぐのが大道芸人たちの通例である．ちなみに「生活費を稼ぐ」という表現に“make a living.”，“bring home the bacon”，“a breadwinner”，“earn one’s keep”などがあるが，彼らの場合，例えば“Those talented musicians are making their living by performing art.”（腕のいいミュージシャンが大道芸で生活費を稼いでいる）といったところか．

ところで，最近，日本のビジネス社会を日本のマンガをつかって紹介した“Bringing Home the SUSHI”が英語で出版（アメリカ・マンガジン社）された．『課長島耕作』『釣りバカ日誌』などを案内役として日本社会を巧みに紹介し，外国人の間で話題を集めている．『東京新聞』（95年11月16日付）によると，大阪で行われたAPEC（アジア太平洋経済協力会議）でも参加者にこの本が配布され，人気に拍車をかけたという．

最後に，大道芸人の口上の一端をつぎに紹介する．

“Ladies and Gentlemen. Thank you very much for taking your time to enjoy my performance. Now,



I will accept your donation. This is how I make my living. Thank you very much for your cooperation."

Green is always greener on the other side.

——隣の芝生は青い

標題に似たタイトルで，東京近郊に住むサラリーマン家庭の日常を楽しく描いた連続テレビ・ドラマ（一種のsitcom＝situation comedy）が以前あった．内容は隣近所への見栄，嫉妬，義母と実母の間の軋轢などから巻き起こる涙と笑いの人生模様．

一般論だが，「蒔かぬ種は生えない」（"You reap what you sow.", "Nothing ventured, nothing gained."）し，人のことを羨んでもはじまらない．自分の足元を見つめ直し，「わが道を行く」のがよいようだ．

"South of the Border"（「国境の南」）というアメリカ人のメキシコ越えを唄ったロマンティックな歌がある．富める国・アメリカからだと，San Diego 経由メキシコ側の国境の街ティワーナ（Tijuana，通称 TJ），遠くはリオ・グランデ沿いのエルパソ（El Paso），更に東南部のラレド（Laredo）経由でも，国境の南は romantico なメヒコ（Mexico）である．途中 Señorita

の前で "Que bonitas ojos tiene usted !" (貴方の瞳は美しい) と歌まで披露するフェミニストもいるかも知れない.

一方, メキシコ (Mexicanos, Chicanos) 側からだと, 北への不法侵入 (illegal entry in the States) をいかに成功させるかに知恵を絞ることになり, 両者でいたちごっこをすることになる.

つい先日 (96年8月), 日系企業の社長がティワーナで誘拐 (abduction) されたが, 身代金 (ransom) を払ってなんとか解決してホッとした.

最近, アメリカより強固な国境線 (the security-tightened border) を建設中だが, メキシコ側はこれを

友好関係を阻害する「ベルリンの壁」(a Berlin Wall) または「トルティーリアのカーテン」(the Tortilla Curtain, トルティーリアとはトウモロコシでつくったメキシコ風ホットケーキの一種) とクレームをつけている.

米国移民帰化局 (Immigration & Naturalization Service) の94年末現在の統計によると, カリフォルニア州の総人口約3,300万人のうち, 不法入国者 (illegal immigration or aliens) が170万人も記録されている. そのため, 同州政府は, 不法滞在外国人の教育をはじめ, 保健衛生, 社会福祉事業費などに年間30億ドル (約3,000億円) もの予算を投じている (earmarked) という.

経済格差が歴然と存在する陸続きの両国. 日本は島国 (insular state) だが, 決して対岸の火事とはいえない. 参考ながら, 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR=Office of the U. N. High Commissioner for Refugees) の資料によると, 世界の難民総数は5,000万人を越えている.

No Pain, No Gain

——苦あれば楽あり

飽食時代の現れか，今では「ダイエット」という言葉は外来語（loanword）の域を脱し，もう立派な日本語になっている．近年，日本でもフィットネス教室（fitness club）やエステ（aesthetic）が雨後のタケノコのように乱立し，学生・OL，また三食昼寝つきで肥満気味の中年婦人を相手に激しい客引き合戦を展開している．ついでながら，面白いテレビコマーシャルで人気の「NOVA」に代表される，英会話教室による過度（excessive）な客引きも願い下げにしたい．

標題 “No Pain, No Gain” は，アメリカのフィットネス教室に決まって掲げてある表現である．類似の格言に “Nothing Ventured, Nothing Have.”「虎穴に入らずんば虎児を得ず」がある．つまり，「なにごとも少しは額に汗しなくては果報はやってこない」ということだろう．

最近では “diet”「ダイエット」より “weight control”

や“weight management”といういい方のほうが抵抗がなくてよいとして，よくつかわれているという．

もちろんダイエット，シェイプアップといっても，一朝一夕によい結果が出るはずはない．英会話と同様，本人の継続的な努力次第であろう．

ところで，「少し体重が増えてきた」や「減量しなくては」は，英語で何というか．

“I'm getting a bit heavier.”
“I'll have to go on a diet.”
“I got to go on a diet, because I've been putting on a little weight lately.”
“I've got to lose some weight.”
“I'm watching my weight.”

fat は，「太った」「ずんぐりした」という意味だが「肥満」は“obesity”という．「肥満なんか私には関係ない．体の調子は最高だ」ならば，

“I'm in top shape.”

といえばよい．

ダイエットとともに，トレッキングなど自然との交流を求める野外スポーツ（outdoor sports）の人気が広が

っている．

アメリカ北東部メイン州生まれの関連用具メーカーにL. L. Bean社がある．東京・新宿店の正面入口のところに気の利いた同社の「社是」が掲示されていたので原文のまま紹介する．

> "Sell good merchandise, at a reasonable profit, treat your customers like human beings and they'll always come back for more."
> (よい商品を適正な利潤で売り人間らしく対応すれば，お客様に何度でも来店していただける)

同じ「ダイエット」でも，定冠詞がついてthe Dietとなると，「国会」という意味である．「国会」のことを指して日本では「永田町」ということが多いが，アメリカの場合，「アメリカ連邦議会」をthe Capitol Hillまたは，the Hillといっている．もとニュースキャスターで衆議院議員の小池百合子氏は，当選した直後，アメリカのテレビ局のインタビューのなかで日本の国会を指して「永田町ヒル」と洒落ていた．政治・行政改革が叫ばれる昨今，「永田町」や「霞ヶ関」にも本当に「ダイエット」していただかねばなるまい．

George ? George who ?
——ジョージ？　ジョージって誰のこと

ケネディ第35代大統領の遺児，John F. Kennedy, Jr. 氏が共同創業者兼編集長（Co-Founder and Editor-In-Chief）として95年10月に創刊し話題となった雑誌 *George*（bimonthly＝隔月誌）が日本でも発売されている．

大統領選挙などの政治問題を考察してはいるものの，この雑誌は政治からみのエンターテイメント誌といえよう．誌名は，初代大統領，ジョージ・ワシントン（1732-99）の名前を借用したようだ．

巻頭には JFK, Jr.による "editor's letter" がある．創刊第２号の表紙は "Falling in Love"（恋におちて）でアカデミー主演賞に輝いたロバート・デ・ニーロ（Robert De Niro）が飾り，また同号には自ら民主党員（a Democrat）を名乗る二枚目スター，ウオーレン・ビティ（Warren Beatty）と編集長との独占インタビュー（exclusive interview）も織り込まれており，政治舞台

の背後に蠢く秘話，逸話なども登場する．

先日，ニューヨークの乗合バスの車体広告が過激(too sexy) すぎると当局から指導されたカルヴァン・クライン (Calvin Klein) の「香りのする」広告がこの雑誌に掲載されていた．また，フィリップ・モリス(Philip Morris) の広告はさらに大胆．赤字で書いた“Balance”という字が紙面一杯にあり，その下にイラストの「弥次郎兵衛」が天ビン棒をかついで綱渡りをしている．左には“Adults' Right To Choose (大人の選ぶ権利)”，右には“Minors Should Not Smoke”(未成年は禁煙) と書いてある．生き残りを賭けるコピーで愛煙家に訴えるメーカー．効果はどう出るのだろうか．

ローラーブレーディング (roller-blading) が大好きだといわれている JFK, Jr.はよく，アメリカで結婚相手として最も望ましい独身男性 (the nation's most eligible bachelor, the Sexiest Man Alive) といわれており，Princess Di [dái] とよばれる“身軽”になったあのダイアナ妃のお相手として，冷やかし半分のエスコート役にも選ばれたことがあったが，96年9月下旬 CK 社広報担当のキャロリン嬢と結ばれ年貢をおさめてしまった．

少し *George* 誌の PR になってしまったが，ケネディ王朝 (the Kennedy Dynasty) の若きエースとして毛並みのよさと話題性を打ち出して，いつまで世界の読者を

引っぱって行けるのだろうか．これが杞憂とならなければよいが．

話題が少しそれるが，『産経新聞』のニューヨーク特派員報告（96年2月19日付）によると，文化，音楽情報に強い週刊新聞（タブロイド版）の *The VILLAGE VOICE* が，96年中に無料化に踏み切るという．広告収入を期待しての大改革で，全米最大（発行部数約20万部）の週刊ペーパーに変身するそうだ．一部130ページほどの分厚い新聞だが，“the Personal”（恋人募集中）の広告欄には強気の売り込みの愉快な表現が満ち溢れており，ちょっと重くなるが，無料のニューヨークみやげとしていかがだろう．

ついでながら，東京・銀座にある歌舞伎座の真裏側（銀座3丁目）に『Hanako』や『クロワッサン』『An An』などの雑誌で有名なマガジンハウスの本社がある．正面入口の左手中2階（mezzanine floor）に新装なった（refurbished）“World Magazine Gallery”があり，世界53か国約1,000種のオリジナルの雑誌類が展示されており，誰でも自由（入場無料）に閲覧（月曜－金曜，11a.m.～7 p.m.）できる．日本人に混じって，欧米系風の外国人がよく利用している．このギャラリーにつぎのような英文案内が出ていたので引用しておこう．

“We are displaying about 1,000 current foreign

magazines which are brought by air from 53 countries around the world. We hope that you would take the advantage to visit and read your favorite world magazines from our large selections."

アメリカの雑誌なら経済，女性，スポーツ，芸能，音楽，旅行など，ほとんど何でも揃っている．イギリス，フランス，ドイツ，イタリア，中南米，中国，アジア各国のものも完備しており，誠に至れり尽くせりだ．行ったことのない方は一度覗いてみるとよいだろう．

Micky Mantle was one of a kind.
——ミッキー・マントルはかけがえのない選手だった

ニューヨーク・ヤンキースの往年のホームラン王，アメリカ人の聖像（icon）のひとりでもあったミッキー・マントル（Micky Mantle）氏が95年夏，この世を去った（passed away）．享年63歳．AP電は，「ブロンクス地区にあるYankee Stadiumを建てたのがベーブ・ルース（Babe Ruth）だとすれば，ジョー・ディマジョー（Joe DiMaggio）がその球場を飾り立て，マントル（The Mick）が，その家計をやりくりしたプレイヤーだった」と彼の功績を称えた．

ディマジョーの現役最後の年となった1951（昭和26）年にマントルは彼の後継者として入団し，50年代，60年代を代表する強打のスイッチヒッターの中堅手として君臨した．3度のMVP，4度のホームラン王，1956（昭和31）年には打率・353，打点130，ホームラン52本を記録し，三冠王（Triple Crown）に輝いている．当時の好敵手（arch rival）はボストン・レッドソックスの左

利きの強打者（left-handed slugger），テッド・ウイリアムス（Ted Williams）だった．

Central Park South 沿いの一角にあるホテル "The Plaza" のすぐ隣（almost next-door）にマントル氏経営の Restaurant & Sports Bar がある．店員は男女とも同選手懐かしの背番号，7番の上着のユニホームを着用し，てきぱきとサービスしてくれる．また，店の電話番号は "688-7777" と下4桁が7で統一されており，各種のマントル・グッズも販売されている．New Yorker のオアシス，セントラル・パークの眺めも抜群なので，野球ファンならずとも一度訪れてみて決して損はない．

ところで，買物の際に「値段が高すぎる」と思ったら，貴方は "This is too much. I can't afford to." とおっしゃるだろうか．すると，商売上手な店主の台詞はよくつぎのようになる．

"This is one of a kind."
（これはどこにもない掘り出し物だよ）

酒をこよなく愛したマントル．
The Mick was one of a kind.

Hero ! Let's drink.

——野茂英雄

アメリカ大リーグ（Major League Baseball）のロサンゼルス・ドジャース（L. A. Dodgers）に単身乗り込み，つぎつぎに記録を塗り替えてゆく野茂英雄投手．標題の“Hero ! Let's drink.”は95年，コロラド・ロッキーズ（Colorado Rockies）戦で彼が連続完封勝利を収めた日に，現地のテレビ関係者がHideo Nomoの名前をもじって紹介したもので，“Hero”は「英雄」の直訳，“Let's drink”は「野茂」と「飲もう」をひっかけてある．

CBSは当時懸案となっていた日米間の自動車輸出問題（Japan-U. S. Auto Trade Dispute）になぞらえて，“Japan is now exporting baseball.”とゴールデン・タイム（英語ではprime time）のニュース番組で報道した．また週刊誌*USA Today-Baseball Weekly*は第一面（front page）で野茂投手を“Rising Son”（日の出の若者）と賞賛した．ちなみに，これも“Rising Sun”（「旭

日」つまり「日本国」）とひっかけたものである．これら野茂投手の快挙（great achievements）に心から拍手を送りたい．

95年のシーズン終了後，野茂投手は全米野球記者協会（Baseball Writers Assosiation of America）による投票で，ナショナル・リーグ新人王（NL Rookie of the Year）に選ばれ，今ではすっかり社交界の名士（socialite, celebrity）になった．ちなみに，次点はワールド・シリーズ（World Series）の覇者，アトランタ・ブレーブス（Atlanta Braves）の三番打者チッパー・ジョーンズ（Chipper Jones）三塁手であった．

受賞に際し，ラソーダ（Tommy Lasorda）監督（96年7月29日に引退を表明）はつぎのように語っていた．

> "He had a tough, tough assignment, coming into a league he knew absolutely nothing about and yet being in a glass case. Everybody was watching him, every game he pitched was televised back to Tokyo. He was under a tremendous strain to accomplish what he did."
> (彼は何も知らずにこちらにやってきて，重責をおわされ，衆人注目のもとでよく活躍してくれた．彼が登板した試合はいつも日本に生放送されていたが，プレッシャーの中でよく頑張った)

参考までに，本場アメリカの野球用語 (baseballese) を紹介しておこう．

三振奪取王 ……strikeout(s. o.) king
防御率 ……ERA (earned run average)
抑え投手 ……closer, mop pitcher, reliever
中継ぎ投手 ……set-up man
右投手 ……RHP (right-handed pitcher)
完投する ……go the distance
投手戦 ……pitching duel
打撃戦 ……slugfest
敬遠の四球 … intentional four-ball
四球 ……walk(s)
ビーンボール ……brushback, beaning
得点圏打率 ……on-base percentage
打点 ……RBI(s) (run batted in), ribbies
盗塁 ……stolen bases
長打率 ……slugging average
ウエーティングサークル…… deck
逆転満塁ホームラン……a come-from-behind bases-loaded homerun or grand slam

ランニングホーマー……an inside-the-park homerun

ちなみに，日本の「沢村賞」に当たる「サイ・ヤング（Cy Young）賞」を95年に獲得したのは，アメリカン・リーグはシアトル・マリナーズ（Seattle Mariners）のランディー・ジョンソン（Randy Johnson）投手，ナショナル・リーグは四年連続でアトランタ・ブレーブス（Atlanta Braves）のグレッグ・マダックス（Greg Maddux）投手であった．参考ながらサイ・ヤング投手は1890年から1911年にかけて活躍，大リーグ記録の511勝を記録し，ニューヨーク州クーパースタウン（Cooperstown）の野球殿堂（Baseball Hall of Fame and Museum）入りしている．

Take me out to the ball game.
——野球場へ連れて行って

96年にアメリカ・アトランタで開催された第24回夏期オリンピックのために新設されたメイン・スタジアムが大会終了後，ただちにアトランタ・ブレーブス（Atlanta Braves）のホームグラウンドに衣替えするという．

野球場のことをアメリカでは“ball park”というが，一般に，数にかんすることで「概算を数えてよ」などという場合，英語では“Give me a ballpark figure.”と表現する．もっとも，大リーグでは各試合毎に場内アナウンスで正確な有料入場者数が発表されており，日本のように東京ドームでの巨人主催試合の入場者数が常に5万5,000人ということはない．

日本の球場では，7回になるとゴム風船を飛ばしたりしているが，アメリカでは7回の表が終わると観客が全員立ち上がって“Take me out to the ball game”（野球場へ連れて行って）という野球賛歌を合唱しており，これを“Seventh Inning Stretch”という．参考までに，

その歌詞を下記に紹介しておこう.

Take me out to the ball game.
Take me out to the crowd.
Buy me some peanuts and Cracker Jack.
I don't care if I never get back.
So let's root, root, root for home team.
If they don't win, it's a shame,
For it's one, two, three strikes, you're out.
At the old ball game.
(Words by Jack Norworth Music by Albert Von Tilzer)

For Whom the Belle Tolls

——誰が為に「鐘」は鳴る

95年は，一躍花形プレーヤーになった野茂投手のお陰で大リーグがずいぶん身近に感じられるようになり，ワールドシリーズ（アトランタ・ブレーブス対クリーブランド・インディアンズ）もぞんぶんに楽しむことができた．野球好きのみなさんなら，日本シリーズと掛け持ちで，日夜，野球三昧を決め込んだのではないだろうか．

美酒を味わった（champagne spraying celebration）のは，ナショナル・リーグのブレーブスであったが，インディアンズの四番打者（cleanup man）アルバート・ベル（Albert Belle）選手はシリーズでも右翼席（right field bleachers）に二本のホームランを放つなどの活躍を見せた．この年，アメリカンリーグのホームラン王（50本），また雑誌 *Sporting News* 選出の年間最優秀選手賞を獲得している．

標題はアーネスト・ヘミングウェイ（Ernest Hemingway）の名作のタイトルのように見えるが，ベル選手

が打席（the plate）に向かうとき，スタンドのファンが掲げた横断幕（banner）の表現である．よく見ると“Bell”が“Belle”となっている．

ところで，「鐘が鳴る」といっても，音色によって英語では bell, ring, toll, sound, gong, chime とつかい分けている．

「鐘」といえば，東京・銀座四丁目交差点にあるランドマーク・ビル「和光」は『チャイム銀座』という PR 誌を発行しているが，あの重厚な建物の屋上にある鐘は，昭和初期から正確な時刻を知らせ続けている．また最近では繁華街のあちこちに，からくり人形の時計台（a mechanical clock）が登場し，愛嬌を振りまいている．

話は戻るが，アーリントン・スタジアムで行われた95年オールスターゲームで，野茂とベルが対戦しており，結果は野茂が空振りの三振に打ちとっている．

U. S. business columnist Hobart Rowen dies
——アメリカ人経済記者ホバート・ローウェン逝く

95年4月13日，*Washington Post* の大物経済記者で，経済問題を取り扱ったニュースをアメリカジャーナリズムの主流に育て上げた中心的人物といわれるホバート・ローウェン（Hobart Rowen）氏が亡くなった．享年76歳であった．

ご存じの通り，*Washington Post* は *Wall Street Journal*，*USA Today*，*Los Angeles Times*，*New York Times* などと並ぶ，アメリカを代表する主要日刊紙（dailies）のひとつである．ここでは，*Japan Times*（95年4月15日付）に転載された同紙の追悼記事の一部を参考に氏の人となりを紹介したい．彼は77年以降 *Japan Times* に定期的に意見を発表していた方なので，馴染みの読者も多いのではないだろうか．

記事によると，クリントン政権のルービン財務長官（Treasury Secretary Robert Rubin）は彼の死を悼み，つぎのように語った．

"We've lost one of this nation's pre-eminent economic journalists. He was a leader in bringing to the fore those issues which are so central to the economic debate."
(アメリカは傑出した経済記者を失った．彼は討議すべき重要な問題にいつも焦点を当ててくれた指導者の一人だった)

ローウェン氏が書いた記事の特徴は，さまざまな経済問題をわれわれの日常生活にかかわる問題（bread-and-butter issues）としてわかりやすく紹介してくれたことにある．彼を知る人は，口を揃えて「ローウェン記者は疲れを知らないひたむきな人で，精力的に世界のニュース現場に足を運び，数々の特ダネを残し，また問題を提起してくれたよい先輩だった」と語っている．

ローウェン氏は，亡くなる直前 *Japan Times*（95年2月4日付）のコラム "Economic Impact" で日本について愛着を込めて語っているので，一部紹介しよう．

"As readers of this column know, I am not a Japan-basher. In the long struggle this country has undertaken to get to the Tokyo Government to open its markets, I have consisitently argued the case that persuation is a better tool than the

sledgehammer. The near complete intermingling of our two economies, in trade and investment, makes that the sensible policy."
(この欄の読者はご存じだが，私は日本バッシャー［たたき派］ではない．日本政府がこれまで長年にわたり取り組んできた市場開放に対し，私は終始一貫して大ナタを振るうより説得するほうが得策だと訴えてきた．日米両国［two economies］が貿易や投資においてできるだけ融合するほうが賢い政策といえよう)

東京ドームが完成する数年前だから，もう十年程前のことになるが，縁があって筆者はローウェン氏の案内役として後楽園球場でプロ野球（日本ハム vs. 阪急）を共に観戦した．「途中で帰るのだろう」と思っていると，彼は最終回まで童心に帰って熱心に日本の野球を見守っていた．ご冥福を祈りたい．

IV　異国への憧憬

Is England an independent nation ?
——イングランドは独立国か

国際連合（the United Nations）の創設五十周年記念式典が95年ニューヨークのイーストリバー（East River）沿いにそびえる国連本部で形式的ながらも盛大に開催された．そこには世界各地から（from all corners of the world）首脳が一堂に会し，儀礼的な祝辞をつぎつぎに贈っていた．

G 7 首脳（もちろん，当時わが国の首相［prime minister］であった村山富市氏も含む）を頂点とするキラ星のごときスターを筆頭に，各国首脳が演壇（podium）に登場したのだが，そのなかで，もっとも人気があった方をご存じだろうか．

その人の名は，その年の秋にアポなしで来日したキューバ国家評議会議長フィデル・カストロ（Cuban President Fidel Castro）氏である．美辞麗句（cosmetic remarks or messages, flattery）を避け，本音を語っていたのが受けたようだ．

先日，テレビを見ていて，十年前に仕事でよく接した当時の駐日イギリス大使館の経済担当参事官（Counsellor Economic）スティーブン・ゴマソール（Stephen Gomersall）氏が，国連保安理（the U. N. Security Council）での記者会見の席上，イギリス次席大使（Britain's Deputy Ambassador to the U. N.）として突然登場したのはうれしい驚きだった．96年8月下旬に起きた，クルド人居住区に対するイラク軍侵攻へのアメリカの報復攻撃にかんする会見だった．

十年前当時，経団連ホールで行われ，筆者のグループが担当した「対英投資セミナー」での苦労が実り，職場の代表宛に参事官より "Thank You Letter" が届いた．手前みそになるが（with your permission），その文面の一部を紹介する．

> "I am writing to let you know how much we in the Embassy admired the professional competence by UPR in organising last week's seminar on investment in Britain."（中略）"During this time we have become accustomed to his great attention to detail, his hard work, and his ability to meet the many demands we make on him, often at short notice. A great deal of the credit for the success of last week's seminar goes to him and his team

of helpers, and I would be grateful if you could please convey our warmest thanks to them."

ところで，世界各国の人々が集まるレセプションなどで「あなたはイギリス人ですか」と英語で質問する場合みなさんなら何というだろうか．"Are you English ?" とか "Are you from England?" などと聞く方が意外に多い．これは英国＝イングランドの図式である．この場合，相手がイギリス南部のイングランド出身ならばそれでよいが，例えばイングランドとの長い民族抗争の歴史を持つ北部スコットランド出身の人に対しては，大変な失礼に当たる．筆者も表現上の誤りや数々の失礼を重ねてきており，この場を借りて謝りたい．

質問の答は，"Are you Briton ?" もしくは "Are you British ?" となる．

ご存じの通り，英国の正式名称は「グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国」(the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland) であり，イングランド (England)，北アイルランド (Northern Ireland)，スコットランド (Scotland)，ウエールズ (Wales) の四地域から成り立つ．つまり，いわゆる英国（イギリス）人は，イングランド人 (the British)，アイルランド人 (the Irish)，スコットランド人 (the Scottish)，ウエールズ人 (the Welsh) の四民族で，ま

とめて俗に Brit ともいう．

イギリスには，1883年にはじまった「五ケ国対抗ラグビー選手権」(the Five Nations Championship) という「国際大会」があり，構成メンバーは，イングランド，アイルランド，スコットランド，ウエールズ，そして1910年から参加しているフランスである．各チームの対抗意識はわれわれの想像以上に強いという．

いうまでもないが，南部のアイルランドはダブリン (Dublin) を首都とする，まったく別の独立国である．イギリスからの北部アイルランド分離を目指すアイルランド共和軍 (IRA - the Irish Republic Army) のテロ行為は，イギリスとの和平協定により一時収束したが，IRA は96年に入ってロンドン東部で起きた爆破テロに荷担したとの声明を発表し，回復した和平にまた水を差してしまった．

April Showers

——四月の驟雨

地球温暖化（global warming, greenhouse effect）の影響かどうか知らないが，96年の冬は非常に（unseasonably）寒く，早く桜の花（cherry blossoms）や野に咲く草花（wild flowers）を楽しみたいと思ったものだ．

北緯（north latitude）40°－50°あたりに位置するニューヨーク，ロンドン，札幌，バンクーバーなどの各都市は，5月中旬から6月にかけて訪れるのが最高だろう．もちろん会社の出張などなら，そう都合よくはいかないだろうが．

「三寒四温」という，寒さと暖かさが前後しながら春に移り行くさまを表現する言葉があるが，本来は現在の中国・東北部地方で使われはじめたものだという．

標題はアメリカのミュージカル映画『アル・ジョルソン物語』（*Al Jolson Story*）の中で紹介された名曲のタイトルだ．旋律の素晴らしさは当然のこと，歌詞

(words, lyrics) も大変よいので，以下にコーラス部分を引用してみよう．

Though April showers may come your way.
They bring the flowers that bloom in May.
So if it's raining, have no regrets.
Because it isn't raining you know (it's raining violets).
And when you see clouds up on the hills.
You soon will see crods of daffodils,
so keep on looking for a blue bird and listening for his song, when-ever April showers come along.
(Words by B. G. De Silva, Music by Louis Silvers)

四月の驟雨は降るけれど，五月の花を運んでくれる雨だから，耳をよく澄ましてごらん！　ほら，青い鳥のさえずりが聞こえてくるよ（訳・筆者）

この"April Showers"はイギリスの早春を歌ったものだが，"April showers bring May flowers."という諺もある．イギリス人は会話のはじめによく天気のことを話題にするが，霧の（foggy）ロンドンをはじめ，全国

的に雨が多い．一日のうちに複数の季節が同居しているともよくいわれる．見知らぬ人との政治や宗教，サポートするスポーツ・チームの話題はタブーだとされており，天気のことを話題にするのが安全だということになる．

主題からそれるが，友人の外国人が苦笑していたことに，よく日本人が彼らに“What do you think of Japan?”と質問することがあるそうだ．確かに，誰もが一口では答えられないことだろう．ついでに語ってくれたが，日本女性が笑うときに，よく口を隠すような仕種をするが，何か不自然でうれしくないそうだ．アメリカ人はよく相手に向かって，“Give me a big smile?”とよくよびかける．『セサミ・ストリート』の人気者，クッキー・モンスター（Cookie Monster）ではないが，楽しいときは精一杯，大きく口を開けて笑おう．

以前，キャセイ・パシフィック航空（Cathay Pacific Airways）の標語に，“Smiling Faces, Going Places”という洒落たいい回しがあった．“going places”とは「旅行する」というほかに，「出世する」という意味もある．そういえば，日本にも「笑う門には福来る」といういい伝えがある．

carry coals to Newcastle
——余計なことをする

戦後，いわゆるエネルギー革命によって石炭は主役の座を石油に奪われ，その市場性（competitiveness, marketability）は大幅に低下しているが，標題の格言にあるニューキャッスル（Newcastle）は，むかしはイギリスを代表する石炭の産地，また出荷港として有名であり，そこにわざわざ石炭を送るのはまさに「余計なこと」であった．現代風にいうなら，“carry oil to the Mideast or OPEC countries”ということになるだろうか．

このニューキャッスル，正確にいうならばニューキャッスル・アポン・タイン（Newcastle upon Tyne）市は北海に面したイングランドの東北部，タイン川沿いにあるが，筆者の友人T氏は，この市の出身である．彼は現在，東京・広尾にアパート（英国風にいえばflat）を所有し，日本のビジネスマンやOLにcommunicative Englishを教えている．職場を共にしたのが知り合

ったきっかけだが，彼とは公私ともども二十年以上の付き合いになる．

彼の父親は，むかし造船エンジニアをしており，兄弟二人はオーストラリアとドイツでそれぞれ教育者として活躍しているという．彼はよく，

"I'm the black sheep of the family."
(オレは一家のはみ出し者さ)

と洒落るくせがある．この "the black sheep" (はみ出し者) というのは，面白く使える表現だ．

スコットランド・エジンバラで，飲んべえの一行と遊んだことがある．エジンバラ城の眺望が楽しめるプリンス通り (Prince's Street) をちょっと入ったあるホテルのレストラン劇場で，スコッチウィスキー (Scotch whisky) を飲みながらハギス料理 (haggis) を頬張っていると，いつしかショーがはじまっていた．司会者 (M. C.= master of ceremonies) が相当な役者で，満席だった会場の喝采を集めていた．客席にはアメリカ人とおぼしき人もちらほらいたが，ステージではイギリス連邦諸国からの客が，それぞれの故国の歌を披露していた．司会者からの依頼で，われわれは日本代表として坂本九の名曲 "Sukiyaki" (「上を向いて歩こう」) を合唱した．そのときジョーク交じりに司会者がいった言葉

に，

“Don’t send cars to here.”

(車を送ってこないでくれ)

があった．

共生（symbiosis）が世界で叫ばれているが，立場を変えて見ると「経済大国・日本」も相当「余計なこと」をしているようである．

Battle Royal, Royal Battle or Whatever
——大乱闘，大乱戦，それとも

エリザベス英女王の離婚勧告の引き金になったダイアナ妃の BBC との単独（exclusive）インタビュー．アメリカの *TIME*（96年 3 月11日号）はティアラ（tiara）姿のダイアナ妃殿下（H. R. H.＝Her Royal Highness）を表紙に取り上げ，つぎのような見出し（photo caption）をつけて世界に紹介した．

It's over	もうオシマイ
Diana and Charles	二人の仲は過去のこと
are history, but a	しかし
battle royal looms	彼女にとって
over her future	これからが正念場

発行部数（circulation）約550万部の *TIME* は，隣合わせとはいえ離れて着席した Charles と Diana のよそよそしい写真を並べ，その説明に "Sign of Estrange-

ment”「仲たがいの前兆」と紹介している．また，イギリスのロイター通信社（Reuters）電は“In the BBC interview, she admitted having an affair with a dashing cavalry officer.”と伝えている．

ここで，この項目の標題“Battle Royal, Royal Battle or Whatever”の説明をしよう．立場は庶民（commoners）とは違っていても，チャールズ皇太子（the Prince of Wails）の母堂であるエリザベス女王II世（Queen Elizabeth II）にとって，わが子はいくつになっても可愛いに違いない．そこで，同女王までがプロレスまがいに「リング上」に登場することになってしまった．“the Prince of Wails”の“wail”には名詞で“grief”の意味もある．それをからかって，*TIME* までが“battle royal”といったわけだが，王室“the Royal Family”のゴシップだけに，イギリス最大の発行部数（約400万部）を誇る大衆タブロイド紙 *The Sun* を筆頭とする各マスコミは battle royal も royal battle も whatever（何でもあり）の，報道合戦も泥沼化の様相を呈してきた．

「二度あることは三度ある」というわけでもないだろうが，チャールズ皇太子の弟，アンドリュー王子（Prince Andrew, the Duke of York）までがセーラ妃（Princess Sarah, the Duchess of York）と正式に離婚することになった．また QE IIの略称でよばれ，横浜に

定期的に寄港している“クイーン・エリザベスII世号”(Queen Elizabeth II)がイギリスのキューナード・ラインからノルウェー資本に売却か，という新聞報道を読んだ．偶然とはいえ，チャールズ皇太子を追って二男のアンドリュー王子も同じ道をたどることになり，「エリザベス女王II世」は正に踏んだり蹴ったりだ．ご承知の通りチャールズとダイアナは96年8月28日付で正式に離婚してしまった．

ダイアナ妃は条件つきで離婚に同意したようだが，彼女の「支持者」のためにも“H. R. H.”(殿下)の称号は失うことになっても，“Diana, Princess of Wales”のタイトルくらいは残してあげて，彼女自身が“I would like to be Queen of People's hearts, in peoples hearts.”とBBCのインタビューで語っていたように，“A Goodwill Ambassador for Britain”(親善大使)を勤めさせてあげたいものだ．

Is Singapore a fine country ?
——シンガポールは「ファイン」な国ですか

東西を結ぶ要衝の地として，発展の一途をたどるシンガポール（SIN）がマレーシアから分離・独立したのは1965年．昨年（95年）で建国三十年になるが，公正（fair）な政治のもと，立地条件のよさを生かし，国際金融都市としてハイテク・センター，石油精製基地の建設やコンベンション施設の完備などを進め，いまではAPECの優等生に成長している．

シンガポールはまた日本並みの治安のよさも誇っている．その背景には，麻薬取引（drug trafficking）を含む重罪（felony）に対して国籍を問わず厳重な処置（capital punishment）が取られることがあげられるだろう．タバコやゴミの「ポイ捨て（cigarette butting, littering）」などの軽犯罪（misdemeanor）でさえも2,000シンガポールドル（約15万円）の罰金が科せられるばかりでなく，“Convicted Litterbug”というチョッキ（vest）を着せられ，繁華街の清掃作業に駆り出され

ることもあるという．犯罪に厳しいということでは隣国マレーシアも同様で，政府発行のパンフレットにはつぎのような文章が赤字で入っている．

> "Trafficking in illegal drugs carries the death penalty."
> (麻薬の所持および販売者は死刑に処せられます)

ところで，標題の文中にある "fine" という単語は「立派な」「晴れた」という意味の形容詞として中学生にもおなじみであるが，名詞で「罰金」という意味もある．この「罰金」というニュアンスを入れたかったので訳はカタカナで表記してある．

70年代の初頭 (early'70s)，筆者は "Clean and Green" の標語が似合う "Garden City State" ——シンガポールを初めて訪れ，その整然とした国づくりに敬服した．現在では古きよき潤いの Chinatown など「明治村」まで再開発してしまったことが少し残念であるが，偉大な建国の雄，リ・クァン・ユー上級相 (Senior Minister Lee Kuan Yew) に心から敬意を表したい．

ご記憶の方も多いと思うが，95年の春，あるアメリカ人学生が破壊行為 (vandalism) で逮捕され，鞭打ちの刑 (caning, flogging) にする，しないでアメリカ大統領まで巻き込む大騒ぎがあった．結局シンガポール当局

の主張が通り，彼は鞭打ち4回の刑に処された．

ともあれ，シンガポールは素晴らしい国である．政府観光局（STPB）によると，95年度にこの国を訪れた日本人は117万人で，主に二十代のOLグループに支持されながら相変わらず右肩上がりの上昇（uptrend）を示している．

cut corners

——手を抜く

むかし，初めて香港（Hong Kong, HKG）に行ったとき，どの新聞・雑誌を見ても，「香港」を指す表現は“Crown Colony of Hong Kong”（英国直轄領）であった．

九竜サイドの“Golden Mile”といわれる目抜き通り，ネーザン・ロード（Nathan Rd.）の横断歩道（pedestrian or zebra crossing）をわたっているときのこと，信号を無視した車が突っ込んできて肝をつぶしたことがある．日本では交通法規をきちんと守ることが常識となっているが，外国に行くとそんな常識は通用しないので覚悟しておこう．

標題の cut corners とは，横断歩道を歩かず，不法に（illegally）道路を斜めに横断することから生まれたフレーズで，「手を抜く」とか「倹約する」（economize）ことをいう．類似の表現に“to take a shortcut”「近道をする」がある．

日本でも，不精者の散らかった（untidy）部屋をからかう表現に「独り者，四角い部屋を丸く掃き」というのがあるが，これも“cut corners”の典型といえるだろう．部屋には普通，角（corners）が四つあるから，まさに「手を抜いた」ことになる．

道路を斜めに横断するぐらいならまだいいが，“jaywalking”（信号無視の歩行）となると外国でも危険であり，よほどのことがない限りやめたほうがよい．余談だが，香港では横断歩道の周辺でよく「スリ諸君」が活動しているという．要注意である．

“corner”の関連表現に，“turn the corner”があるが，こちらは「危機を脱する」「峠を越えた」という意味である．例文をあげておこう．

> “According to AP, the physical condition of Russian President Boris Yeltsin seems to have turned the corner.”
> (AP通信によるとエリツィン・ロシア大統領の体調は峠を越えたようだ)

Is Tokyo an international city ?
——東京は国際都市ですか

国境なき社会となってきた昨今（in this day and age），働いている企業や組織にもよるが，なかなか長期休暇（a long holiday）は取りにくい．学生の身ならいざ知らず，いまさら休職の形を取って留学などをすることは，ほとんどノーチャンスだろう．

96年4月から首都圏（東京，千葉，埼玉，神奈川，茨城の一部）をサービスエリアとする初の外国語（英語を中心に中国語，韓国語，スペイン語，ポルトガル語，タイ語，インドネシア語，タガログ語の8か国語）放送のインターFM（InterFM, 76.1 MHz）が開局した．午前6時から翌朝午前2時までが生放送（live［láiv］broadcasting）で，その後は音楽を流している．同局広報部によると，米軍向けのFEN（Far East Network）放送（810［eiten］on your dial）から軍事情報とスポーツ番組を除き，若者（20s through 40s）向けの音楽と芸能情報を中心に，ローカル・ニュースを交え

た親しみのある内容の構成にしているという．確かに，Roppongi，Shibuya，更にShiatsu（指圧）などの身近な地名や言葉がネイティブの台詞として飛びかっており，メガシティ・Tokyoの国際色ぶりが楽しめる．

開局初日，*Japan Times*の第一面（front page）には世界各地の著名人や東京在住の各国大使から祝電（congratulatory messages）が寄せられたと報じられていたが，モンデール駐日米国大使（U. S. Ambassador to Japan Walter Mondale）はインターFMと国際都市Tokyoにつぎのようなメッセージを贈っている．

> "People from all over the globe have gathered in this great city to live and work side-by-side with our Japanese neighbors. The importance of communication and mutual understanding is growing every day. That's why a foreign language station like InterFM can do so much to bring this vast international community together."

話が大阪へ飛ぶが，わが国初の多言語FM局の関西インターメディアが，95年秋に大阪に誕生している．京阪神の約550万人の聴取者（listeners, audience）を対象に，日本語，英語を中心にインド各語など，14の言語をつかった放送で人気を集めている．

NHKテレビでは各種の英会話番組をはじめ，ドイツ，フランス，イタリア，スペイン，イタリア，中国，韓国（ハングル）の各種外国語の番組を毎日放送している．NHKラジオ第2の『やさしいビジネス英語』はなかなか充実した番組だ．日曜日にまとめて再放送している．さらに，CNN，BBC，衛星第1・第2など，世界中の生の声と映像がわれわれの茶の間に直接，飛び込んできてくれる．大いに活用したい．“One is never too old to learn.”（「人は一生が勉強」）という格言もある．

多忙な貴方は「そんな番組を見ている暇はないよ」というかもしれないが，それはいい訳だろう．録画も簡単に取れる時代だ．欧米の名画や新作もビデオで手軽に楽しめる．

東京のJR有楽町駅前にある有楽町電気ビル北館20階に，日本外国特派員協会（Foreign Correspondents' Club of Japan,通称FCCJ）という外人記者クラブがある．会員制なのでnon-memberは自由に入れないが，多くの日本人記者も会員になっており，ゲスト（同伴者）としてなら入れるので，貴方の知恵を働かせて機会をつくってはいかがだろうか．

皇居（the Imperial Palace）の森や丸ノ内の高層（high-rise）ビル群の眺望を楽しみながら，ここで飲むビールの味は，一段と味わい深いものになること請け合いだ．

bridge the gap

——隙間を埋める

ドーバー海峡（the Channel）を結ぶ英仏直結の海底トンネル（the Eurotunnel）が誕生し，British Isles と称される島国のイギリス（the U. K.）は今ではヨーロッパ大陸（the Continent）と繋がっている．ヨーロッパの経済連合として1952年に EEC（the European Economic Community）が誕生し，67年 EC（the European Community），さらに現在では EU（the European Union）と年を追うごとに発展的に名称を変え欧州の統一通貨（common currency "euro"）を含めたブロックの政治・経済圏の確立を目指している．

一方，戦後半世紀が過ぎたというのに，日韓関係（the bilateral relations between Japan and the R. O. K.）はいまだぎくしゃくしている．つい先日もある閣僚が，オフレコ（off-the-record）で失言（slips of the tongue）をしてしまい，またまた辞職（resignation）に追い込まれた．東西文化を論じる雑誌 *Intersect*

Japan（PHP 研究所）96年 2 月号で名物編集長ロバート・J・J・ワーゴ氏が日本の政治家・公人による失言についてつぎのように語っている．

> "Public figures are prone to slip of the tongue. Being in the public eye is exhausting, and it isn't surprising that someone under constant media pressure will occasionally say what they really think. Most ministerial faux pas have been interpretation of Japan's role in Asia prior to 1945."
> （公人は失言をしがちだ．衆人環視のなかにいると疲れ，マスコミに常時さらされていると本当のことをつい漏らしてしまうようだ．近年における閣僚の軽率な発言の多くは，終戦までの日本の役割にかんする解釈の問題である）

わが家（rabbit hutch……）の隣人である韓国出身の奥さんに教えてもらったのであるが，韓国では「ありがとう」のことを「カムサハムニタ」といい，「おはよう」「こんにちは」「こんばんわ」はすべて「アンニョンアセヨ」でよいそうだ．ハワイ現地語 Aloha（アロハ），グアム島（Guam）の公用語でもあるチャロモ語の Hafa Adai（ハーファダイ）と同様に便利な表現である．

2002年に行われるサッカーのワールドカップ（The

World Cup）の共同開催（cohosting）国に日本と韓国が選ばれた．あまり国境を気にせず，グローバルな視野で応援すればつまらぬ摩擦（friction）も再燃せず，文字通り“bridge the gap”できそうだ．

『爆弾的英語教育改革論』で話題となったイギリス・エセックス大学講師のマークス寿子氏は，「国際化を図るためには技術上の英語表現力はもちろんのこと，自国文化をよく知っていてこそ，はじめて外国の人々との交流もできよう」と語っている．

野球大好きの筆者ではあるが，歴代文部大臣の喜々とした甲子園での始球式は小学生にでも任せて，その時間を受験英語のためだけの無駄な指導を改善するためにつかっていただきたい．ボーダーレス社会に対応してゆくための実のある（tangible）教育がなされなければ，それは職務怠慢（negligence of official duties）という名の犯罪に等しい．

V　英語世界への旅

tighten one's belt

——経費を抑える

晴れの日も雨の日も（rain or shine）「痛勤」電車（jam-packed trains）に詰め込まれ，職場へ急ぐ日本のサラリーマンは大変だ．ニューヨークでも，地下鉄の車内は多少混むが，ラッシュ時の乗客はたいてい吊り革（strap）にでもぶら下がっていればよい．そこから，地下鉄での通勤者（commuters）は“straphangers”とよばれている．また，以前“9 to 5”という題名のアメリカ映画があったが，9時に出社し，夕方5時に退社する人は“a nine to fiver”，その人の仕事は，“a nine to five job”とよばれている．

いわゆるバブル経済の崩壊以来，日本では「リストラ」（restructuring）＝事業の再構築，「ダウンサイジング」（downsizing）＝小規模化，「リロケーション」（relocation, repositioning）＝再配置，「レイオフ」（lay-off）＝一時解雇などの外来語を頻繁に耳にするようになった．これらの言葉は日本語で表現すると大変刺激的な

ので，労務管理上の配慮から，外来語をつかうことであえて「あいまい」(ambiguous) に表現しているのであろう．

英語では，「人員を一万人削減する」ならば "to slash 10,000 jobs" または "to trim 10,000 jobs" と表現する．日本語でも「ふんどしを締め直して頑張ろう」などの表現があるが，緊縮財政は "belt tightening"，緊縮措置は "austerity measures" となる．標題の "tighten one's belt" は出費を抑えるという意味．例文をあげると，

> "Under the recession, we'll all have to tighten our belts."
> (この不況では，われわれは全員で経費削減を図る必要がある)

また，これらの関連語に "streamlining" (合理化) がある．95年末，全日空 (ANA) が導入した最新鋭 (state-of-the-art) 旅客機，ボーイング (Boeing) 777は，在来機より燃費が11%も軽減できる省エネタイプだという．同社の計画によると，生産性の向上 (stepped-up productivity) を図るため，今後，合計28機が導入されるという．どの企業も「アメとムチ作戦」(carrot-and-stick approach) などで，経営の立て直しに必死だが，当分，厳しい戦い (uphill battle) が続きそうである．

When it comes to～

——～のことなら

バブルがはじけ，不況（faltering or beleagered economy）という名の不協和音（dissonance）がマスコミを通じて連日（day in and day out）聞こえてくる．

こんな時代だからこそ，働くもの一人ひとりに「武器」(competitive edge, advantage) が求められている．さて，あなたはどんな「武器」をお持ちだろうか．「能力主義時代」「大競争時代」の到来に備え，大いに実力を養っておきたいものである．

湾岸戦争（the Gulf War, 1990-91）の経過をリアルタイムに報じたことで，アメリカのニュース専門ケーブルテレビ局CNN（Cable News Network）は世界的な注目と評価を勝ち得た．そのCNN社主で「放送界の風雲児」テッド・ターナー（Ted Turner）氏率いるTurner Broadcasting System（TBS）は，95年雑誌*Time*, *Fortune*で著名なタイム・ワーナー（Time Warner, Inc.）社に約75億ドルで買収され，世界最大の

メディア・エンターテイメント王国の一員となった.

CNN を見ていたら，ウォール街などで働く若い OL たちの間でスニーカー（sneaker, loafer）が流行していると報じていた．ファッション性があるのと同時に防犯上素早く行動できることが，その主な理由だという．一方日本では OL たちの意識はまだそこまではいかないようだ．安全性のことになると（when it comes to security）日本は世界一といわれているが，最近はそれも揺らいでいる．

標題 "When it comes to～" は大変便利な表現である．使用例を二，三あげてみよう．

> "When it comes to user-friendly computers, Apple Computer is leading the market."
> (つかいやすいコンピュータのことになると，アップル・コンピュータが市場のリーダーだ)
> "When it comes to quality, Japanese products are regarded as No. 1."
> (品質のこととなると，日本製品は一番と思われる)

ところで，リーダーのことを英語では "pace-setter" ともいう．「流行の仕掛け人」なら，"trend-setter" である．この厳しい時代，リーダーたるものは自信を持って "Leave it to me." (任せておいてよ) と胸を叩きたいものである．

Which is correct, VCR or VTR ?
——VCR と VTR，どちらが正解？

円高が主な原因で，80年代から日本企業の海外投資 (overseas or off-shore investment) が目立ちはじめた．昨今では産業の空洞化 (hollowing-out) が各方面で進み，日本にとって死活問題 (life-and-death issues) になりつつある．

現在でも，日本は電化製品の主要生産国ではあるが，ビデオ・デッキ (an apparatus for recording and playing vediotapes) の場合に限って見てみると，今日ではすでに輸入国になっているという．もっとも，これは日本メーカーによる現地産品の逆輸入を含めての話ではある．

本題に入りたい．日本ではビデオ・デッキのことを "VTR" というが，これは明らかに和製英語で，欧米では "video cassette recorder" を略して "VCR" といっている．私たちの周囲には，さまざまな和製英語があるので要注意である．

ある日曜日の午後のこと，暇つぶしに近所のレンタルビデオ店からA. ヘップバーン（Audrey Hepburn）とH. ボガート（Humphrey Bogart）が共演した，50年代の名画『麗しのサブリナ』（*Sabrina*）のテープを借りてきた．この物語（plot）はニューヨーク近郊のロングアイランド（Long Island）に住む大富豪のお抱え運転手（chauffeur）の娘（ヘップバーン）を中心に展開する．映画のなかで，パリの料理学校に留学中の娘サブリナが2年振りの帰国を前にしたある晩，父親にしたためた手紙をモノローグ風に語るシーンがある．とても詩的で素敵な台詞なので一部紹介したい．

> "It's late at night, and someone across the way is playing "La Vie En Rose". It's the French way of saying: "I'm looking at the world through rose-colored glasses". and it says everything I feel.…… I've learnt how to live-how to be in the world and of the world, and not just to stand aside and watch. And I will never, never again run away from life, or from love, either."

Don't call us, we'll call you.
——連絡はこちらからします

就職希望者にとっては超氷河期（a great ice age）だという．長引く不況（dragging economy, protracted recession）のもと，何枚もの履歴書（résume）をかかえての多くの企業回りはシンドイに違いない．

面接試験（job interview）の成否は一刻でも早く知りたいものだが，先方に問い合わせたからといっても，色よい返事（favorable reply）はすぐにはもらえない．そんなときの決まり文句が標題の台詞である．

"Don't call us." とは文字通り「連絡はしないで」，"We'll call you." は「こちらから電話します」ということ．わざわざ連絡しても合否は変わらない．

関西弁の「考えときまっさ！」と少し似たニュアンスの表現が "We'll think it over." または "We'll see what we can do.", ほかに，"We'll let you know.", 単に "Get in touch." などもある．結局はネガティブの場合が多いようだ．

ブロードウェイ・ミュージカル "Miss Saigon" のオーディションで初代の主役の座を射止めたフィリピーナのライラ・フロレンティーノ (Leila Florentino) 嬢はあるテレビの対談番組で，オーディション直前まで，近くのレストランで給仕のアルバイト (a part-time job) をしていたと語っていた．

ちなみに，ニューヨークの飲食店などで働く waiters, waitresses の多くは，機会 (opportunity) を待つ掛け出しのダンサー (fledgling dancers) が多いといわれている．飛ぶのが上手なバッタは "grasshopper" だが，よく転職する人を "a job-hopper" という．「お金をやり繰りする」ことを "to make both ends meet" という．ニューヨーク，東京，それに負けじと香港の家賃 (rent) も高くやり繰りが大変だ．

本題に戻るが，パーティーで知り合ったばかりの女性に，男性が "May I have your phone number ?" と深追いすると，つぎのようにかわされることになる．"What's yours ?" そして，"I'll call you." 残念ながら，この台詞はその場限りの社交辞令 (cosmetic remarks) ということになる．Cheer up ! (ガンバッテ)

Every cloud has a silver lining.

——黒雲にも銀の裏打ち・前途の光明

航空機（aircraft，複数形も同じ）をよく利用する諸氏ならおわかりになると思うが，雨の日，離陸したあと，機体が上昇するにつれて暗雲が消え去るのが見え，いつしかまばゆいばかりの陽光が機内に差し込んでくる．とても美しい光景である．

標題の格言は，そのような光景を表しているもので，「この世は悪いことばかりは続かない．少しぐらい結果が悪くとも，そのうち必ず運が向いてくる」と一般に解釈されている．

ものごとにはいろいろな見方があるが，代表的なのは「楽観的な見方をする」（to take an optimistic view）場合と，逆に「悲観的な見方をする」（to take a pessimistic view）場合であろう．しかし，この二つを比べると，その結果に極端な違い（be poles apart）が生じるのは明らかである．

ところで，ここでいう poles とは両極のことであり，

北極のことを“the North Pole”，南極のことを“the South Pole”というが，とくに南極大陸を周囲の海洋を含めて“the Antarctic”または“Antarctica”といっている．

アメリカ社会では，誰かが弱気な考え方をしていると“Why can't you see the other side of the coin?”（どうして逆の見方をしないの）とか，“You've got to look on the bright (or sunny) side of things.”（どうして楽観的な見方をしないの）
と気合いを入れられる．

いずれの国・社会においても，そして，誰にとってもこの世（this planet earth）は生き残りをかけた戦い（a cutthroat competition）なのだから，楽観的な見方をしたほうが生きやすいのかもしれない．

しかし，同僚（colleagues, peers）が落ち込んでいたら，つぎのように励ますとよいだろう．

“We are behind you.”
“I'm on your side.”

sideという単語についてつけ加えると，英語ではコインの表側をheads，裏側をtailsという．アメリカのコインには25セント（a quarter）貨に初代大統領ジョージ・ワシントン（George Washington）というよう

に，それぞれ表側に歴代大統領の横顔が描かれている．それで表側を heads というようになったのである．ついでだが，レコードの B 面は flip side，また，話の裏側は flip side of the story という．

What line of business are you in ?
——どんな関係のお仕事ですか

「ジェット機に乗ればひとっ飛び」とはいうものの，アメリカ西海岸，さらに東海岸までとなると空の旅もなかなかシンドイ．日本では，全国を紹介する場合「北は北海道から南は沖縄まで」というが，アメリカでは“from coast to coast”，“from border to border”または“from ocean to ocean”という．いうまでもなく，アメリカは西海岸のロサンゼルスと東海岸のニューヨークの間に3時間もの時差が存在するビッグ・カントリーなのである．

英語を母国語とするいわゆるnative speakerと座席が隣合わせになったら，それは貴方の英語をbrush upするよい機会であるが，まったく見知らぬ人（a total stranger）と会話をはじめるにはきっかけが必要だろう．筆者の場合には，“I'm Japanese, and I teach karate in Tokyo.”などと自己紹介をしながら探りを入れ，相手の表情を見ながら話を進める．そんなときにつ

かえる無難な表現を列記してみたい．

"Where do you come from ?"
"Where do you live ?"
"Are you on a business trip ?"
"Are you on your way back from business deals in Japan ?"
"May I ask you what has impressed you the most in Japan ?"
"Could you give me any advice for while I'm in the States ?"

しばらく話をしているとお互い打ち解けてはくるが，さすがに初対面では「貴方の職業は？」と聞けない．そんなとき，遠回しな標題の表現 "What line of business are you in ?" は便利である．もっとも，話相手は隣席の人に限らず誰でも構わないわけで，体操がてら，トイレ (lavatory) への行き帰りに客室後部の方へ行くと，ヒマを持て余した attractive なパーサーやスチュワーデス，または乗客の誰かが話相手を待っている．ものの本によると追い風 (tail wind) と逆風 (head wind) とでは巡航速度 (cruising speed) に数時間の差が生じるという．時間があるときは彼らにも積極的に話しかけてみるとよい．

Smoke-free flights

——機内は禁煙

マンハッタンに一番近いラグァーディア空港（LGA）は，主に国内便が離発着している空港で，東京ならさしずめ羽田に当たる歴史豊かな空港である．アメリカでは国内便は6～7年前から全便禁煙となった．

タバコ好きが多い日本人には辛い話であるが，「健康志向（health-conscious）」の高まりとともに「嫌煙権運動（anti-smoking campaign）」の輪が世界的な広がりを見せてる．

IATA（国際航空運送協会）が最近世界規模で行った調査によると，ビジネス客の三分の二以上が禁煙に賛成し，北米だけでも78％以上が賛成している．統計によると，日本人男性の60％が愛煙家でイギリス，アメリカは各30％．一般に欧米よりアジア諸国のほうが喫煙率は高い．

95年から国内便，国際便ともに全面禁煙に踏み切ったのがアトランタに本社（home port）を持つデルタ航空

(Delta Air Lines) で成田 (NRT) と名古屋 (NGO) に週20便運行している．同社の時刻表 (timetable) につぎのようなメッセージがあったのでその一部を紹介する．

> "Delta has become the first and only U. S. airline that flies totally smoke-free. Worldwide."

デルタとともに全便禁煙に踏み切ったのが，カナディアン航空 (Canadian Airlines) とエアーカナダ (Air Canada) などである．またフィンランド航空 (Finnair) は97年度から実施される．人気のキャセイ・パシフィック航空 (Cathay Pacific Airways) の場合には，日本—香港便 v. v. (往復) を除いて全便禁煙となっている．シンガポール，ヴァージン・アトランティック (Virgin Atlantic) も同様．

ところで，訪問国の入国手続き (immigration clearance) を機内で行ってくれる航空会社がある．それは，成田と関西国際空港 (KIX) 発のガルーダ・インドネシア航空 (Garuda Indonesia) で，ジャカルタ (JKT) のスカルノ・ハッタ空港 (CGK) に到着するまでに入国審査官が手続きを列車の検札のように簡単に済ませてくれるので入国がスピーディーで有り難い．

余談になるが，欧米のビジネスピープルに人気がある

のが肩掛け式の garment bag（衣服携帯用折りたたみバッグ）である．機内持ち込み（carry-on baggage）なら，盗難（pilferage）のおそれもなく，壊されることもない．なによりも到着時にロスタイムがないのが最高だ．

every Tom, Dick and Harry

——猫も杓子も

俗な表現に「ミーちゃん」「ハーちゃん」「ミーハー族」という表現があったが，英語式に書くと Me-chan, Her-chan とでもなるのだろうか．この場合は一般的な「男の子」「女の子」という二つの性（gender）を指している．

わが家の隣人（next-door neighbor）に Harry という名前のアイリッシュ系ニューヨーカー（Staten island）出身が長らく住んでいたが，この男性は無類の酒（hard liquors）好きで，よく食事代わりに強いウィスキーを愛飲していた．日本の大手メーカーのコンピュータ・エンジニアとして世界中を飛び回っていた彼は，よく楽しい土産話を聞かせてくれたりした．今も，彼からもらった Aramco 社の名前入りのガラス瓶にはいった "Saudi Crude Oil"（サウジ原油）が筆者の机上に飾ってあるが，リストラの影響で先日突然に引っ越してしまった．

標題の "every Tom, Dick and Harry" はアメリカでよくつかわれる表現だが，これらはすべて男性の名前である．似た表現に "John Doe" がある．アメリカ・オクラホマシティーで起きた連邦ビル爆破事件の容疑者として指名手配された二人の男のことを，マスコミは John Doe #1，#2 とよんでいた．日本でも水死人のことを「土左衛門」というが，どこの国にも独特のいい方があるものである．

英語では "Every Jack must have his Jill." (どんなジャックにも似合いのジルがいる，どんな男性にも似合いの女性がいる) という表現があり，日本にも「割れなべにとじ蓋」といういい方がある．彼氏，彼女いない歴何年の人でもそう悲観しなくてもよいということだろう．近い将来，クリント・イーストウッド (Clint Eastwood) のアクション映画『ダーティーハリー』(*Sudden Impact*) の台詞ですっかり有名になった "You make my day." (君のお陰で今日は最高) といえるような素晴らしい異性との出会い (encounter) があるかもしれない．

Have a nice life.

Early Bird Special

——早朝割引

永年の自動車王国としての地位が揺らいでいるアメリカだが，ビック・スリー（GM, FORD, CRYSLER）が，最近，日本市場に照準を合わせ（zero in）巻き返しを図っている．日本にはすでにドイツを中心とするヨーロッパ車が浸透しており，日米欧三極（trilateral）による競争がこれからさらに激しさを増すだろう．

ご存じの通り，アメリカはクルマ社会である．ニューヨーク，シカゴなどのダウンタウン（都心）への乗り入れは時間的にも不経済（costly）だから避けたほうが賢明ではあるが，商業地区を車で走っていると，標題の表現 “Early Bird Special” と書かれた駐車場の看板が目につく．early bird とは早起きの人のことを指す．早朝にやってくる客は割引料金で駐車できるというものである．同様に，東京のある一流ホテルのレストランに “Early Bird Buffet” と名づけられた割引朝食メニューがある．これも早起き鳥たちを集める対策の一環なのだ

ろう.

早朝や夕方ごろ，アメリカのホテルのロビーの一角ではコーヒーやトースト，アイスクリームの無料サービスをやっていることがあるが，この時間帯は“happy hour”とよばれていた.

鳥といえば，むかしスコットランドには，いろいろな種類の鳥が生息していたのか，ここが発祥地であるゴルフ用語には“birdie”（小鳥），“eagle”（ワシ），“albatross”（アホウドリ），“booby”（カツオドリ），“bogy”（敵機）など鳥にかんするものが多い．筆者は，全英オープン（the British Open）が開催されたゴルフ場として有名なターンベリ（Turnberry）のエルサ・コース（the Ailsa Course）でプレーした経験があるが，蟻地獄の小山ようなバンカー（bunker or sand trap）の連続で，三桁（triple-digit）も叩いた苦い（bitter-sweet）思い出がある．むこうでは，一般に7～8歳くらいからプレーをはじめるのだそうで，このようなコースができるのも無理はない.

法外な（exorbitant）料金を取る日本のゴルフ場だが，バブルがはじけ，僻地のコース（golf links）では閑古鳥が鳴いており，“Early Bird Special”も導入されるだろう．いずれにせよ，洋の東西を問わず「早起きは三文の得」（The early bird catches the worm.）なのは間違いない.

behind the scenes

——舞台裏で

「一寸先は闇」といわれる政界（political circles）では，多くの交渉ごとがわれわれの目の届かぬところ，まさに舞台裏（behind the scenes）で行われているという．日本では数か月ごとに首相が交代し，世界を「驚嘆」させたことがあったが，そのことについて東京大学の猪口孝教授は *The Daily Yomiuri*（94年7月5日付）で「誰がなってもいい勝負．これでは持ち回りのカラオケ・デモクラシー（karaoke democracy）だ」と嘆いておられた．

> "First, anyone can participate and that stirs the feeling that anyone become prime minister. One may be lulled by the case of karaoke in that if another person can give a mediocore performance, one feels capable of singing too and taking up the mike right away."

(第一に誰もが参加でき，誰もが首相になれるという気分を喚起してくれた．もし誰かが月並みの演技しかできないことがわかれば，自分も歌えるという気分になり，ただちにマイクを取り上げることになるカラオケと同様な気分にしてくれたことである)

日本でも政治家たちを揶揄する表現として「政治屋」「政治業者」があるが，ご存じの通り，英語では "statesman" と "politician" ではまったくニュアンスが異なる．「金権政治」は money-tainted politics というが，よくいわれる「政治改革」(sweeping reforms in politics) とは一体何を指しているのだろうか．候補者の多くは，選挙のときには気前のよい公約 (pledges) を掲げるが，当選してしまうと，知らぬ間にそれらは「棚上げ」となり，多くが「絵に描いた餅 (a pie-in-the-sky promise, an empty promise)」になってしまう．そんな候補者を選んでしまう有権者も，大いに反省する必要があるだろう．

さて，標題にある「舞台裏」(behind the scenes) という語句は，もちろん，いつも否定的な意味になるとは限らない．「裏方」という意味もある．たとえば，

"During the school festival, she played a major role behind the scenes."

(彼女は学園祭の裏方として，大役を果たした)

また，CNN の人気芸能ニュース "SHOWBIZ today" の司会者ローリン・シドニー (Laurin Sydney) は番組の冒頭，

> "Meet your favorite stars in front of the camera and behind the scenes."
> (お気に入りのスター達の表と裏の表情をお楽しみ下さい)

といっている．

"behind" を使った類似のフレーズには，behind closed doors (非公開で) がある．

> "The trilateral ministerial meeting in Washington, D. C. was held behind the closed doors."
> (ワシントンでの三極閣僚会議は非公開で行われた)

ところで，"behind-the-scenes negotiations" というと「根回し」の意味になるが「闇取引」という意味では "under the table", "under the counter" などの慣用句もある．under の反意語は over であるが，"over the counter" となると「証券取引所 (stock exchange) を

経ていない店頭取引」という意味になる．ニューヨーク証券取引所（NYSE）などでは，店頭取引のことをNASDAQ dealingといっている．また，処方箋なしで買える薬のことを医薬品業界ではOTCといっているが，これは“over-the-counter drug”の略である．

behindに話を戻すと，車を運転することを“be behind the wheel”という．飲酒運転（driving under the influenceもしくは，driving while intoxicated）の上，人を死傷させてしまう大事故（fatal accident）を起こしてしまうと，即刻“behind bars”すなわち「鉄格子のなか」に入れられてしまうことになる．くれぐれも，そんなことにはならないように注意したいものだ．

We are in the same boat.

——運命共同体

アメリカでテレビを見ていると，“evian”など，各種ミネラル・ウォーターのCMがよく流れてくる．これはトレンドなのだろうか，若者たちが，よく紙袋に包んだボトルに入ったミネラル・ウォーターを飲みながらニューヨークの街を歩いている．日本でも，こうして歩く白人男性を日比谷公園で見かけたことがある．

世界各地で環境汚染（environmental pollution）が想像以上に進んでいるという．環境保護運動が盛んになり，「環境にやさしい」（eco-friendly）「自然観察旅行」（ecotourism）などの言葉をよく耳にするようになった．先進国（industrially-developed countries）でも潔癖性の人は蛇口から出る水（tap water）を飲めなくなっているようだ．それが，ミネラル・ウォーターが普及する一因となっているのだろう．

筆者は，海外旅行中，水の代わりにコーラなどを飲むことがよくある．というのも，東南アジアのあるリゾー

トで遊んでいたとき，大変な下痢に見舞われた経験があるからだ．やはり生水類には要注意である．

ところで，以前は「発展途上国」のことを英語では underdeveloped countries, less developed countries などといっていたが，現在では一般的に developing countries, emerging nations といっているようだ．

標題 "We are in the same boat." は「われわれは同じ環境にいる」という意味で，"We are in the same trouble." (「われわれも悩んでいる」) というニューアンスを含んでいる．例文をあげよう．

"I'm flat broke. Can you lend me some money ?"
「文なしなんだ．少し貸してよ」
"Sorry, I'm in the same boat."
「悪いけど，俺も同じなんだ」

ところで，北京 (Beijing)，上海 (Shanghai) 方面に最近出張した友人から聞いたのだが，中国では，行政の規制が甘い (lax) せいか，「公害まき散らし型」の工場が多く大気・水質汚染 (air and water pollution) が相当進んでいるという．産業廃棄物 (industrial pollutants or wastes) などの汚染物質が風に乗って飛んできて，日本に酸性雨などを降らせていないか心配である．

I'm very grateful to you.

——どうもありがとうございます

読者のみなさまには，最後まで読んでいただき，心から感謝申し上げたい．

小生がこれまで海外をはじめ東京などで出会い，交歓した無数の外国人から直接教えてもらいコレクションした「ありがとう」という表現をそれぞれの国や地域の言葉でABC順（in alphabetical order）に紹介する．一部，本人から口移しに聞いた通りの発音のまま（phonetically）をカタカナで紹介したものもあるが，可能な限り各駐日大使館などで再確認した．

Afrikaans（南アフリカ語・白人，白人に準じる人種）…dankie［ダンキー］

（コーザ語・黒人語の一種）…enkosi kakulu［エンコシ・カクール］

Arabic（アラビア語）…shukran［シュクラン］

（イスラム圏語）…assalam aleikum

［アッサラーム・アレークム］

＊「ありがとう，今日は」などハワイ現地語の aloha! に似た用法

Beijing Chinese（北京語）…謝々［シェシェ］

Bengali（バングラデシュ語）… dhonnobad ［ドノバッド］

Burmese（ミャンマー・ビルマ語）…ジェズデバデー

Cambodian（クメール語）…オークンチャラー

Dutch（オランダ語）…dank u wel ［ダンク　ウエル］

English（英語／米語他）… thank you

Finnish（フィンランド語）… kiitos paljon ［キートス・パリヨン］

French（フランス語）… merci beaucoup ［メルシー・ボクー］

German（ドイツ語）… danke schön ［ダンケ・シェーン］

Greek（ギリシャ語）… sefastov［セファストフ］

Hebrew（ヘブライ語＝イスラエルなど）… toda raba［トダ・ラバ］

Indian（インド語）／

Hindi（ヒンズー語）… dhanyawād ［ダーニャワッド］

Urudu（ウルドウー語）… shukriya

［シュークリヤ］

Tamil（南部インド・タミル語）… nandri

［ナンドリ］

Indonesian（インドネシア語）… terima kasih

［テリマ・カシ］

Italy（イタリア語）… grazie［グラッツェ］

Korean（ハングル＝朝鮮語）… kamsahamnita

［カムサハムニタ］

Kwantungnese（広東語／香港中国語）…多謝

［トーチェ］

Malay（マレイ語）… terima kasih［テリマ・カシ］

Nepalese（デバナガリ語＝ネパールなど）

… dhanyabad［ダニャバッド］

Papuan（パプア・ニューギニア語）… tan kiu-tru

［タン・キュートルー］

Persian（ペルシャ語＝イラン語）

… motashakkeram［モシャケラム］

Pilipino（フィリピン・タガログ語）… salamat po

［サラマット・ポー］

Portuguese（ポルトガル語）… obligado

［オブリガード］

Polish（ポーランド語）… dgiekuje［ジイクイエ］

Russian（ロシア語）… spasibo［スパシーボ］

Spanish（スペイン語）、… muchas gracias

［ムーチャス・グラーシャス］

Taiwanese（台湾語）…多謝［トーシャ］

Thai（タイ語）… khob khun ka

［カッ　クン　カ］（女性語）

… khob khun kup

［カッ　クン　カップ］（男性語）

Turkish（トルコ語）… tesekkur ederim

［テシェクール・エデリム］

Urdu（ウルドウー語＝パキスタンなど）… shukriya

［シュークリヤ］

Vietnamese（ベトナム語）…感恩［カンオン］

相手の言葉が話せなくても，一言でもお互いにコミュニケーションが取れると，とてもほのぼのとする．お試しを！

参考文献

〈単行本〉
・秋澤公二　1988 『アメリカ人は英語で考える』 ごま書房
・秋澤公二　1996 『アメリカ英語のエッセンス』 丸善
・グディラ，F，J，　1995 『ビジネス英会話 “自由自在”』 朝日出版社
・グリーン，ミエコ　1990 『ニューヨーク・イングリッシュ Part 1』 ダイヤモンド社
・グリーン，ミエコ　1991 『ニューヨーク・イングリッシュ Part 2』 ダイヤモンド社
・小林薫　1988 『英語で勝負』 日本放送出版協会
・Tamayo　1995 『あんたらなにビビッてんの』 クレスト社
・東後勝明　1989 『一歩進んだ英会話』 講談社
・東後勝明　1993 『英会話最後の挑戦』 講談社
・戸田奈津子　1994 『男と女のスリリング』 集英社
・マークス寿子　1995 『爆弾的英語教育改革論』 草思社
・松本道弘　1989 『スピーキング英和辞典』 ＫＫベストセラーズ
・宮本美智子　1990 『わたしは英語が大好きだった』 文藝春秋
・谷沢慎一郎　1991 『住んでみたニューヨーク』 サイマル出版会

・Fargan, Harb　1996　*NOMO* Penguin Books-a signet
・Hemingway, Ernest　1993　*The Old Man and The Sea* Arrow Books
・Makkai, Adam Ph.D　1984　*Handbook of Commonly*

Used American Idioms Barron's Educational Series
・Morita, Akio 1990 *Made in Japan* Fontana Paperbacks
・Reagan, Nancy 1989 *My Turn* Dell books
・Spears, Richerd A. 1987 *American Idioms Dictionary* National Textbook
・Trump, Donald J. 1989 *Trump-the Art of the Deal* Warner Books
・Tuleja, Tad 1989 *Foreignisms* Macmillan Publishing
・Whiting, Robert 1989 *You Gotta Have WA* Vintage books
・Waither, George R. 1992 *Power Talking* Berkly books

〈辞典〉
・松田徳一郎監修 1990 『リーダーズ英和辞典』 研究社
・Gilman, E. Ward 1989 *The Merriam Webster Thesaurus* Merriam-Webster Inc.
・Hawkins, Joyce M and Allen, Robert 1991 *The Oxford Encyclopedic English Dictionary* Clarendon Press

〈新聞・雑誌〉
・*The Japan Times* ジャパンタイムズ
・*The Daily Yomiuri* 読売新聞社
・『時事英語研究』 研究社出版
・『週刊 Travel Jounal』 トラベルジャーナル
・*TIME* Time-Warner Co.
・*George* Hachette Filipacchi USA

英語再発見
コミュニカティブ・イングリッシュのすすめ　丸善ライブラリー 216

平成8年12月20日　発　　行

著作者　春　日　良　治

発行者　鈴　木　信　夫
出版事業部 深山恒雄

発行所　丸善株式会社　東京・日本橋

出版事業部　〒113 東京都文京区本郷二丁目38番3号
編集部　電話(03)5684-5081／FAX(03)5684-2458
営業部　電話(03)5684-5571／FAX(03)5684-2456
郵便振替口座　00170-5 5

© Ryoji Kasuga, 1996

組版印刷・暁印刷株式会社／製本・株式会社 星共社

ISBN 4-621-05216-0　C0282　　Printed in Japan

199 世界の古書店III　川成洋 編
200 教育改革論　加藤寛 著
201 地方分権 ——どう実現するか——　重森曉 著
202 通のアメリカ英語　三輪裕範 著
203 ふたたび月へ　野本陽代 著
204 「たとえ」で学ぶ英語　高月晋 著
205 敬語再入門　菊地康人 著
206 結婚の社会学 ——未婚化・晩婚化はつづくのか——　山田昌弘 著
207 職場の戦争 ——人間関係をどう生きぬくか——　J・ヘッセ他著 関根伸一郎訳
208 食品添加物 ——安全神話の崩壊——　渡辺雄二 著
209 情報社会の文化経済学　池上惇 著
210 現代若者ことば考　米川明彦 著
211 時間創造の達人 ——知的情報活用のすすめ——　植村達男 著
212 ストレス・癒しの病理学　海原純子 著
213 カルテは誰のものか ——患者の権利と生命の尊厳——　和田努 著
214 ホスピタリティ・マネジメント ——ポスト・サービス社会の経営——　服部勝人 著
215 テクノデモクラシー宣言 ——技術者よ、市民であれ——　柳田博明 山吉恵子 著
216 英語再発見 ——コミュニカティブ・イングリッシュのすすめ——　春日良治 著
217 知・記号・コンピューター　仲本秀四郎 著

181 英語の名教授
——英英辞書活用のすめ——
松本安弘 松本アイリン 著

182 アメリカ英語のエッセンス
秋澤公二 著

183 江戸商人の経済学
童門冬二 著

184 満州の誕生
——日米摩擦のはじまり——
久保尚之 著

185 本が語る現代
川成 洋 著

186 詩に映るゲーテの生涯
柴田 翔 著

187 英語ユーモアのセンス
鈴木 進他 著

188 世紀の評決
——シンプソンはなぜ無罪になったか
宮本倫好 著

189 ニューヨークの日本人
——国連型異文化交流のすすめ——
黒部紳一郎 著

190 ロシア民俗夜話
——忘れられた古き神々を求めて——
栗原成郎 著

191 アメリカ人に通じない英語
——和製英語のルーツ——
山田雅重 著

192 イギリス観察学入門
三谷康之 著

193 都市づくりの発想
——世界に見るカルチャー・シティ——
井上 繁 著

194 異文化をこえる英語
——日本人はなぜ話せないか——
鳥飼玖美子著

195 タヒャンサリの歌
——わたしの中の日韓歳時記——
尹 學準 著

196 現代を読み解く倫理学
——応用倫理学のすすめII——
加藤尚武 著

197 市民社会のボランティア
——「ふれあい切符」の未来——
田中尚輝 著

198 インターネット・ビジネス
久保田達也著

163 アメリカ生活AtoZ　五月女光弘著
164 人工生命とは何か ——進化するコンピューター——　白石明彦著
165 ティータイムの英語　岡田誠一著
166 アメリカの戦後五十年 ——ジャーナリストが見た半世紀——　宮本倫好著
167 理科系の英語読本　志村史夫著
168 地球環境を守るために　北川浩一郎著
169 リンボウ先生偏屈読書録　林望著
170 人間は生命を創れるか ——進化学のあゆみと未来——　五條堀孝著
171 ミュージカルへの招待　宮本啓著

172 アメリカを読む ——英語の新聞・雑誌を通して——　渋谷彰久著
173 コミュニケーションの英語 ——知的交流のために——　鍋倉健悦著
174 知的ゴルフのすすめ　塩谷育代 田中誠一著
175 戦後教育五十年　野原明著
176 半導体産業のゆくえ メディア・ルネサンスの時代へ　西村吉雄著
177 英語と米語 その違いを読み解く　大石五雄著
178 森林破壊と地球環境　大石眞人著
179 幻の美術館 ——甦る松方コレクション——　石田修大著
180 食卓の博物誌　吉田豊著

145 阿蘭陀通詞 今村源右衛門英生 ——外つ国の言葉をわがものとして—— 片桐一男 著
146 アメリカ・ジャーナリズム 下山 進 著
147 理科系の英語 志村史夫 著
148 知られざるジャパノロジスト ——ローエルの生涯—— 宮崎正明 著
149 温泉の文化誌 大石眞人 著
150 サイエンス食生活考 成瀬宇平 著
151 英語ユーモア学 鈴木 進他著
152 アメリカ人の知らない英語 ——和製英語のすべて—— 山田雅重 著
153 日本の政党 村川一郎 石上泰州 著
154 インターネット・ワールド ——米国シリコンバレーより—— 黒田 豊 著
155 体験英語の楽しみ 多賀敏行 著
156 カフェ ——ユニークな文化の場所—— 渡辺 淳 著
157 現代のダ・ヴィンチ ——サイエンスとアートの共生—— 高木隆司 著
158 明石工作 ——謀略の日露戦争—— 稲葉千晴 著
159 世界の古書店II 川成 洋 編
160 景気循環の演出者 ——日本の経済政策を考える—— 白川一郎 著
161 環境社会学のすすめ 飯島伸子 著
162 ガルブレイス ——制度的真実への挑戦—— 根井雅弘 著

127 ニッポンななめ読み　天野祐吉 著

128 北村透谷 ―彼方への夢―　青木 透 著

129 ポピュラーサイエンス 宇宙　野本陽代 著

130 ゲームとしての交渉　草野耕一 著

131 日本の官僚 ―役人解体新書―　村川一郎 著

132 アメリカス・カップ ―その歴史と栄光―　小島敦夫 著

133 マルチメディアの新世紀　伊藤英一 著

134 アメリカ英語とイギリス英語　大石五雄 著

135 選挙制度 ―民主主義再生のために―　小林良彰 著

136 ヨーロッパの心 ―ゲルマンの民俗とキリスト教―　植田重雄 著

137 ブロードウェイの魅力　大平和登 著

138 歴史に学ぶ危機管理　童門冬二 著

139 平成の歌舞伎　野原 明 著

140 現代経済学への招待　根井雅弘 著

141 石橋湛山 ―自由主義の背骨―　姜 克實 著

142 アメリカン・テレビ・ウォーズ　山口秀夫 著

143 いま、なぜ死刑廃止か　菊田幸一 著

144 キリストに出会う　渡辺正雄 著

春日良治（かすが・りょうじ）

一九三三年奈良市生まれ。五二年県立長野北高校卒業。五七年中央大学商学部卒業。学生時代、米軍施設で英文毎日のセールスを行う。六五年以降、約三十年にわたり、PRコンサルタントとして駐日イギリス大使館、キャセイ・パシフィック航空、ホテル・ニューオータニ、香港観光協会、P&O汽船などの広報業務にたずさわる。また日米間の企業提携コーディネーターを務める。現在、ガルーダ・インドネシア航空広報担当。

●デザイン＝日本情報デザインセンター＋薬師神親彦
●イラストレーション＝石山博司

9784621052167

丸善ライブラリー

定価700円（本体680円）

1910282007002

ISBN4-621-05216-0 C0282 P700E

I —— lingua franca〈国際共通語〉としての英語
II —— communicative Englishへの道
III —— アメリカとの出会い
IV —— 異国への憧憬
V —— 英語世界への旅

09-CEA-700